週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1908
明治41年

12|1
平成10年12月1日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第45号 通巻88号
平成10年8月21日第三種郵便物認可
¥560
講談社

第1回ブラジル移民
791人の苦闘の日々!

"うま味"で勝負!
「味の素」製造開始

シベリア
「ツングースカ大爆発」
のミステリー

清朝の独裁者・西太后死す!

後宮から同治帝・光緒帝をあやつる
化粧品代だけで年10万両――贅と横暴の限りをつくした47年

清朝最後の独裁者・西太后死す！

▲頤和園仁寿殿前で輿に乗る西太后。最前列の人物は、総管太監の李蓮英（右）と崔玉貴（左）。

日清戦争の敗北により、弱体化した国家体制や権力中枢の腐敗が露呈し、列強の侵略を受ける清朝末期――まさにこの斜陽の時代の中国を統治したのが、西太后だった。彼女は、相次ぐ政治的事件に適切な対応策を取ることなく、むしろ近代化のブレーキとなって中国の植民地化を加速させた。西太后の死は、二〇〇〇年にわたる封建的社会の終焉と、新時代の到来を象徴する出来事だったのである。

▲観音菩薩に扮して。

権謀術数の才を発揮し第五夫人から皇太后に

清朝の独裁者である西太后（七三＝尊称は慈禧皇太后）が逝去したのは、一九〇八年一一月一五日のことだった。彼女はほんの数週間前、北京西部にある離宮・頤和園で豪勢な誕生会を催したが、チベットから来たダライ・ラマ一三世が万寿を祝う経を唱えた後、紫禁城の御殿のひとつで寝こんだのだという。

西太后の甥ながら確執状態にあり、幽閉同然の身だった一一代光緒帝（三七）も同じ頃、原因不明の中毒症状で床に伏していた。西太后は、彼の病状を報告させ、「あれとは不倶戴天の身。あれが死ぬまで、わしも死なぬ」ともらしていた。そして自分の死期を悟ると、光緒帝の甥にあたる三歳の男子を急遽、次の皇帝に指名する。

「わたしの前には、くすんだ色のとばりが垂れていて、それを透かして痩せこけた恐ろしい顔が見えた。それが慈禧だった。それを見てわたしは大声で泣き出し、震え出したそうだ。（中略）『なんて嫌な子なんだろう』と彼女は言った」――この直後、清朝最後の皇帝に即位する溥儀は、西太后との初対面の様子を自伝『わが半生』にこう書き残している。

一一月一四日、西太后は光緒帝死去の報に、「先に死んだか」とつぶやき、翌一五日、後を追うように脳溢血で死去したのである（『最後の宦官 小徳張』張仲忱著）。

◎表紙　権力欲と生来の勝気によって、一地方官の娘から清朝の独裁者の地位にまで昇りつめた西太后。

▲豪華な衣装を身にまとい、カメラの前でポーズを作る。

▲清朝最後の皇帝・溥儀（右）と弟・溥傑。

後宮から同治帝・光緒帝をあやつる
化粧品代だけで年10万両——贅と横暴の限りをつくした47年

清朝最後の独裁者・西太后死す!

そのため、光緒帝と西太后の不自然な死期の符合については、西太后による毒殺説などさまざまな憶測を招いた。

彼女の遺体は、生前みずから選んだ殉葬品——ダイヤモンドとルビーの首飾り、翡翠の食器など清朝宮廷に伝わる最上品——とともに、盆八〇杯分の真珠がちりばめられた金の棺に納められたという。

清朝末期の四七年間を、実質的に統治した西太后の生涯は波乱に富んだものだった。満州族・葉赫那拉氏の出身、一六歳で九代咸豊帝の第五夫人として後宮入りし、二〇歳の時に男子（後の同治帝）を出産。野心的な西太后は、たちまち慈安皇太后に次ぐ第二夫人＝慈禧皇太后にのし上がった（慈安皇太后の住居が東の綏履殿なのに対し、西の平安室を住まいにしたため西太后と呼ばれた）。

西太后が権謀術数の才を発揮するのは、一八六一年の咸豊帝の死後、五歳で即位した同治帝の摂政の座に、慈安皇太后と並んでついてからだった。文盲で政治的野心のない慈安皇太后をないがしろにし、二六歳の彼女が後宮から国事をあやつり始めたのである。批判的な咸豊帝の寵臣は、先帝の異母弟・恭親王奕訢らと組んだ西太后によって次々と粛清された。

成長した同治帝は実母を尻目に花街に入りびたり、一八七五年、一九歳で死去（死因は梅毒説と天然痘説がある）。その後、西太后の強引な指名で帝位についたのが、光緒帝（当時・四歳）だった。

「西太后が国を滅ぼす」政治改革めざす光緒帝

西太后の豪奢な生活ぶりは、清朝史上比類なきものだった。化粧品代だけで年間一〇万両（一四万円、日本の首相の俸給約一二年分）が支給され、約三六〇品もの料理が並ぶ食事には四、五百人の宦官がつき従う。はては、髪をすく宦官が毛一本でも抜こうものなら平手打ちが飛び、庭の花の咲き方が悪いと言っては鞭打ち刑に処す。一八九四年に始まり、清朝の弱体化を世界に露呈した日清戦争の敗北は、彼女による北洋艦隊建造費の横流しにも遠因があると言われる。

西太后によって宮廷内の腐敗が一層深刻化した裏では、列強による中国分割競争が激化。それと同時に、農村経済の崩壊や手工業者・商人などの破産が相次ぎ、庶民は重税に苦しんだ。こうした状況下、孫文らによる革命運動が、弾圧を受けながらも民衆の間に着々と広がっていく。

他方、おとなになるにつれ、憂国の情を募らせたのが光緒帝だった。

「西太后を何とかしないと、国が滅びる」——康有為（当時・四〇歳）ら改革派官僚グループの支援を受け、若き皇帝は一八九八年六月、科挙制度廃止や軍隊近代化も含む百余の詔勅を打ち出した。ちなみに、政治体制の改革をめざしたこの「百日維新」は、日本の明治維新にならったものとされる。

光緒帝の成人により表向きは引退していたものの、常日頃改革を苦々しく思っていた西太后は「戊戌の政変」を起こして皇帝を幽閉、改革派家臣を弾圧し、再び独裁者に復帰したのが同年九月だった。

対外的には、一九〇〇年の外国人排斥運動「義和団の乱」を利用して、列強に宣戦を布告。ところが、旗色が悪くなると、西太后は媚外（列強におもねる）政策に転換し、翌年九月には植民地化を加速する「北京議定書」に調印した。

以後、西太后は清朝存続のため、立憲政治への方針転換を試みるが、時すでに遅かった。

「西太后が登場したのは、列強が大陸に押し寄せ、国内では革命運動が台頭した時代でした。斜陽の王朝における保守政治の中心人物だった彼女は、二人の幼帝を擁立して権勢をほしいままにするだけで、光緒帝が手をつけようとした新政を挫折させ、『義和団の乱』では国家を深刻な危機に追いやってしまった。彼女の失政が植民地化を推し進め、清朝崩壊を早めたと言っても過言ではありません」と語るのは、京都大学人文科学研究所の岩井茂樹助教授である。

西太后の死から三年たった一九一一年一〇月、「辛亥革命」によって中国の各省が次々と独立を宣言。翌年二月一二日には溥儀が退位し、満州族による漢民族支配に終止符を打つと同時に、二〇〇〇年におよぶ中国王朝の歴史も幕を閉じた。

それから約二〇年後、清朝復興の妄執に憑かれた廃帝・溥儀は、西太后の亡霊に導かれるように日本の関東軍と手を結び、「満州国」建設に向かって危険な綱渡りを始める。

▲西太后の葬儀の列。清朝の崩壊を決定的にした「女帝」の遺言は、「以後再び婦人に国政をまかすべからず」だった。 HULTON GETTY／オリオン・プレス

▲孫の溥儀と溥傑にはさまれた祖父・醇賢親王奕譞。

才色兼備の側室・珍妃の悲劇

西太后の残忍ぶりを象徴するエピソードとして最もよく知られているのが、光緒帝の側室・珍妃（当時・24歳）の殺害である。

光緒帝は、西太后の姪にあたる隆裕を皇后としていたが、夫婦仲は険悪で、才色兼備の側室・珍妃を最も寵愛したと言われる。珍妃は官僚の娘で、当時は妹の瑾妃とともに光緒帝の側室となっていた。西太后は、日頃から姪の隆裕に泣きつかれていたことや、「戊戌の政変」の際、珍妃が改革派官僚の逃亡を助けた一件などによって、彼女をこころよく思っていなかったという。そこで、1900年の「義和団の乱」で北京に迫る8ヵ国連合軍から逃れるため宮廷が西安へ疎開する際、西太后は、「重い病にかかっております。どうか実家にお帰しください」と同行を拒んだ珍妃を、家臣に命じて井戸に突き落とし、殺害したとされる。ただし、殺害の理由としては、満州族の名誉を重んじた珍妃が疎開に反対したため、西太后が激怒したという説もある。

▲西太后に殺害された、光緒帝の愛妃・珍妃。

▲咸豊帝を祀る定陵の東にある定東陵。右が西太后の陵だが、1928年、軍閥・馮玉祥軍の兵士によって破壊、盗掘された。

「移民会社にだまされて 地球の裏側へ来てみれば」
"棄民""捨て石"として「笠戸丸」に乗りこんだ人々！
第一回ブラジル移民七九一人の運命

七九一人の日本人移民が、バラ色の夢を抱いてブラジルのサントス港に向けて出発した。移民会社の大宣伝につられた彼らのほとんどが、二、三年の出稼ぎ気分で海を渡った人々だった。ところが、想像だにしない厳しい現実に直面した移民の多くは、文字どおり、ブラジルに骨を埋める人生を歩まざるをえなくなる。

「金のなる木コーヒー」甘言が満載の案内書

明治四一年四月二八日の午後五時五五分、東洋汽船の「笠戸丸」(六〇二三トン)が、ブラジルのサントス港に向けて神戸港を出航した。乗りこんでいるのは、第一回ブラジル移民募集に応募した日本人七九一人(契約移民七八一人、自由移民一〇人)。次第に遠ざかる神戸港、夕陽に染まった摩耶山の姿を、全員が感慨深げに眺めていた。

出航前の壮行会では、兵庫県選出の土井権太代議士が、移民会社を代表して「成功せずんば死すとも帰らずの覚悟で行くべし」と演説し、花火まで盛大に打ち上げられた。いやがおうにも高まる期待感に、一張羅の洋服に身を包んだ移民らは、「鞄に紙幣ばいっぱい詰めて、故郷に戻るつもりですばい」「四〇〇〇円貯めたら、コーヒー三、四俵土産に持ち帰りましょう」と目を輝かせていたという。

▶「『俺を生んでくれた日本よ、もう俺はお前を二度と見ないから、日本糞喰らえ』といい泣いていた」。4月28日、「笠戸丸」に乗っていた第1回移民、香山六郎のノートより。

▲14歳でブラジルへ渡り、歯科医療学校で学ぶ金城山戸(左から3人目)。

移民会社「皇国殖民会社」の第一回ブラジル移民募集案内によれば、コーヒー農園では「三人の一家族にて三円六〇銭(一人一円二〇銭)の収入を毎日貯蓄できるとあった(当時の日雇い労働者の日給が四九〜五三銭)。「舞楽而留」というあて字が躍り、「金のなる木コーヒー」などの甘言が満載の案内書につられ、高利貸から渡航費(個人負担分六五円)を工面した移民も少なくなかった。

移民七九一人の出身は、沖縄、鹿児島、熊本を含む一府一三県。「一組の夫婦と三人以上の働き手を有する家族」という移民資格をクリアするため、出航日に初めて会ったニワカ兄弟、急病の妹の代わりに姉が義弟の妻として移民した夫婦など、さまざまな"偽装家族"が含まれていた。

この時期、ブラジルが注目されたのは、おもな移民先だった北米で排日運動が高まり、米国が移民を禁止、カナダが制限したため、新たな移住先が必要とされていたからだと語るのは、『サントス第十四埠頭』の著者・藤崎康夫氏である。

「急速に近代化を進める中で、政府は国家財政を地租にたより、農民には重い負担がかかっていました。その結果、明治一六年から二三年にかけて地租滞納で罰金を科された農民は三六万七〇〇〇人、一七年から一九年までに全耕地の七分の一が負債により抵当流れしています。都会がやむなく廃業した農民たちを吸収できるわけはなく、結局彼らが出稼ぎ移民にならざるをえなかったわけです」

日露戦争終結から二年——戦後不況、街にあふれる失業者と問題山積の政府にとって、移民は有効な口減らし策だった。

政府の期待を受け、ブラジル移民に先鞭をつけたのが、「皇国殖民会社」である。社長の水野龍は、慶応義塾大学卒業後、政治家・後藤象二郎の知遇を得て官界や政界への進出を試み、そこから移民事業に転じた人物。ところが水野は、外務省に支払う移民輸出許可保証金一〇万円などを工面できず、「笠戸丸」の出航が遅れたばかりか、出航前に預かった移民の所持金(計七六七七五円)まで流用するありさま。これが、第一回ブラジル移民の実情だった。

▶明治四一年四月一五日発行の日本帝国海外旅券。

藤崎康夫提供(4点とも)

バラ色の夢から地獄の現実へ——百八十度の落差に彼らが愕然とするのは、六月一八日のブラジル到着後だった。

スト宣言や逃亡続出 農具片手に詰め寄る

六月二四日に、サンパウロ州のカナーン農場に入植した沖縄移民一五二人を第一陣に、移民は計六ヵ所の農園に振り分けられた。最初に彼らが驚いたのは、絶望的な収穫量だった。凶作と収穫期後の入植という悪条件が重なり、三人家族が一日働いても採取できるコーヒー豆は一袋から一袋半。出来高払いだと一人当たり二二銭程度の稼ぎにしかならず、渡航費の借金返済どころか、日々の暮らしにさえ四苦八苦するのが実情だった。

「移民会社にだまされて　地球の裏側へ来てみれば　きいた極楽　見て地獄……」

農園では、移民がこんな歌を口ずさん

▶サントス港到着後、列車でサンパウロへ。移民は窓から、日本とブラジルの国旗の小旗を振った。

▲サンパウロ移民収容所。日本から持参した荷物は、行李、やかんと湯呑み、毛布、歯磨き粉などだが、中には養蚕用具を一式持参したものもいた。　藤崎康夫提供(2点とも)

でいた。ましてや、ニンニク油の炒飯などの慣れない食事、家畜小屋や倉庫を改造しただけの住居、奴隷制度時代と変わらぬ意識で移民を監視する監督官……心身ともに限界に近づいた移民の怒りの矛先は、移民会社に向けられた。

「移民会社の宣伝の如く、一日賃金三人家族にて九円より一〇円が約束されぬ限り働かぬ。水野、上塚（『皇国殖民会社』ブラジル業務代理人）の嘘つき奴。一日一円にも足らぬ収入で、一人一五〇円以上の旅費を払って知らぬ他国にくるものがあるか」（熊本県出身、橋口重正の日記）

八月に入ると、スト宣言や移民の逃亡が続出。なだめる移民会社に、男衆が農具片手に詰め寄る一幕もあった。

結局、契約移民七八一人中、一年後まで最初の入植地に留まったのは一九一人。多くが、鉄道工夫やメイドなどに転じた。そうした転業組から日本人植民地の開拓者や、伝説の賭博師（儀保蒲太）、日系人歯科医師第一号（金城山戸）などが生まれる一方、「故郷に錦を……」の志なかばで病死する移民も数知れなかった。

続いて、関東大震災後の不況などといった社会不安のたびに、政府の奨励によりブラジル移民が増加。昭和一六年までに、約一八万八〇〇〇人が海を渡った。そして、第二次世界大戦の勃発で日本とブラジルが国交を断絶すると（昭和一七年）、移民たちは、日系人排斥運動や母国敗戦の真偽をめぐる分裂に直面する。

「日本の海外移民史は、政府による棄民史であり、貧困の輸出そのものでした。特に第一回ブラジル移民のような初期移民ほど、言わば〝捨て石〟だった。そこで、帰国できなくなった移民たちは、言葉や生活習慣、技術を身につけ、二世、三世が活躍する今のブラジル日系人社会の礎を築いたのです」（藤崎氏）

現在、約一三四万人と世界最大規模に発展したブラジルの日系人社会――。彼らは今も、「笠戸丸」がサントス港に到着した六月一八日を「移民の日」として記念し、七九一人の苦闘をたたえている。

▲コーヒー農園に入植した移民は、早朝、鐘と角笛の音で作業場へ送られ、日没まで働いた。

女たちの肖像

女婿・王仁三郎の力を得て大本教開祖の出口なおが組織的な教団運営を開始！

稲葉真弓

幕末から明治にかけて、日本には新宗教が続々と生まれている。黒住教、天理教、金光教、丸山教などが、維新の動乱期、日清・日露戦争に続く不安な世情の中で民衆の心をつかんでいった。そうした新宗教のひとつに出口なおを教祖とする大本教（現・宗教法人大本）があるが、なおの教えを理論化し、活発な布教活動を行ったのが、出口王仁三郎（旧名・上田喜三郎）である。

なお（七一）と王仁三郎（三七）はこの年八月、教団名を金明霊学会から大日本修斎会と改め、教義を体系化した組織的教団運営へと乗り出した。なおの人生は貧困、労苦など負の要素に満ちているが、王仁三郎という後継者の力を得て、ようやくその想念に形を与えられることになった。

天保七年（一八三六）一二月、京都・福知山城下で桐村五郎三郎という大工の家に生まれたなおは、酒好きな父のため没落していく家庭で、貧苦の幼少時を送った。家計を助けるために一〇歳で奉公に出て、呉服屋、饅頭屋を転々とした後、子供のいない母方の叔母の養女となった。出口姓になったのはこの時だが、叔母はまもなく不倫の恋によって自殺。なおはその叔母の霊が告げる声に従って大工の政五郎を婿に迎え、出口家を継いだ。が、遊び好きの夫のため生活は困窮し、ボロ買いや糸繰りをしながら、計一一人の子を産み（うち三人と死別）育てるという過酷な日々を強いられた。

なおに最初の神がかりが現れるのは長男の自殺、夫の病死、さらに娘二人が続けて発狂するという極限状態に追い詰められた明治二五年一月、五五歳の時である。

「われは艮之金神であるぞよ」という内なる声と問答を交わしたなおは、しばしば神がかり状態になり座敷牢に監禁されたが、これが憑霊現象に拍車をかけた。彼女の教えとして知られる「筆先」は、この牢の中で生まれたという。以後、彼女は神の声を膨大な「筆先」に記したが、いずれも世の立て直し、改革を訴える内容、既存の価値観への批判などがこめられている。「筆先」のほかに病気治しの奇跡も行い、救いを求める民衆の心をとらえていった。

こうした彼女の「筆先」を世に広く伝える役割を担ったのが、五女・すみと結婚した王仁三郎である。大本教は彼の力によって発展、大正一〇年、昭和一〇年と二度の弾圧を生き延び今日にいたっているが、なおは大正七年一一月、波乱の生涯を終えた。

▶神がかり状態で予言を繰り返した出口なお。

大本本部提供

勝者・敗者

慶応の伝統が生まれた瞬間連敗続きの外国人クラブに「魂のラグビー」が初勝利！

阿部珠樹

早稲田なら「揺さぶり」、明治なら「前へ」。日本の大学ラグビーにはキャッチフレーズにふさわしい部の伝統がある。これらに対して、最古の伝統を誇る慶応のキャッチフレーズは「魂のラグビー」である。高校時代ほとんど無名の、体格的にも劣る選手を集めながら、気迫で強豪にぶつかり血路を開く戦いぶりが、慶応の伝統というわけだ（もっとも、最近は早稲田、明治両校に水をあけられ、魂は苦戦中なのだが）。

こうした伝統は、どこから生まれたのだろう。

慶応ラグビー部の創設者は、横浜の豪商・田中平八の子息・田中銀之助である。ケンブリッジに留学した田中は、そこで本場のラグビーを学ぶ。

日本人と英国人の体格の差は、現在よりもずっと大きかった。体格的に劣る日本人が、大男たちにまじってプレーするにはどうしたらよいか、田中が存分に考えたであろうことは、想像にかたくない。

帰国した田中は明治三二年、エドワード・クラークの片腕として慶応に日本最初のラグビーチームを結成する。田中が二六歳の時だった。

しかし、日本には慶応以外にチームはなく、対戦相手は体格的に勝る横浜や神戸の外国人クラブのチームばかり。なかなか彼らの壁を破ることはできない。ドロップゴールの奇襲で相手を驚かせたり、柔道の技で大男を投げとばしてうっぷんを晴らすような場面もあったが、スコアのうえでは、所詮、敵ではなかった。

この年、明治四一年も、二月に神戸の外国人クラブと対戦し、完敗する。だが、田中に鍛えられた慶応チームは、この年の一一月一四日、ついに快挙をなしとげる。創立当初からの宿敵、横浜の外国人クラブを相手に、厳しいタックルで守りに守り、完封。少ないチャンスをものにして、一二対零のスコアでとうとう初勝利をものにしたのだ。大きな相手にひるまずぶつかり、番狂わせを演じる――田中が留学時から模索し続けたいわば「魂のラグビー」の原形が、ここに誕生したのである。

▲前年11月の対横浜戦。最後列中央の鳥打帽が田中銀之助。

▲**日本チャリネ大曲馬団、大人気（1月26日）**東京・麹町で10日間、1日2回興行。団員13人が欧米仕込みの、馬や自転車の曲乗りで観客を魅了した。

◀**日本初の撮影所誕生（1月20日）**映画製作の草分け、吉沢商店が東京・目黒に建設。エジソン・スタジオを参考に、壁面をガラス張りにした。最初の作品は、川上音二郎の喜劇だった。

▼**石川啄木、釧路新聞社へ（1月19日）**前年、函館で大火にあい、白石社長に招かれた。写真は新聞社前の啄木（21、後列左から6人目）。しかし、4月下旬には再び上京、再起を期した。

▲**東京の屋上演説で検挙（1月17日）**山川均、堺利彦、大杉栄（左から）ら直接行動派が、中止命令を無視、演説を強行したため検挙された。判決は、従来になく厳しい禁固刑だった。

▶**至難の周回飛行に成功（1月13日）**英国人のボアザン兄弟設計、ファルマン操縦の「ボアザン・ファルマンⅠ型」（写真）が、1キロを1分28秒で往復した。

▶**韓国皇太子一行、三越へ（1月）**前年、伊藤博文韓国統監とともに日本に留学。李垠（10、中央）と学友4人（前列の学生服）が、日本語勉強のかたわら、社会見学で三越を訪れた。

「太陽」

明治41年1月

1（水）●日本の人口は年内に五千万人突破、と新聞に。
2（木）●カナダ・バンクーバーで前年に続く排日暴動。
3（金）●東京株式相場、米国の恐慌続行の報に大暴落。
4（土）●大蔵省、輸入タバコの三割値上げを実施。
5（日）●鳴尾の関西競馬場で神戸築港記念競馬会。
6（月）●信徒ふえるモルモン教の教会設立申請に対し、内務省は当分不許可の方針、と新聞に。
7（火）●東京勧業協会、常設陳列館を上野に完成。
8（水）●川上貞奴の「紅葉狩」がパリで大好評と新聞に。
9（木）●上野動物園で前年購入のキリン二頭中、雌の一頭が死亡（後に博物館陳列のため剝製化）。
10（金）●ベルリンの普選要求デモが暴動化。
11（土）●前年の鯨捕獲は一〇五頭で好調と日本捕鯨(株)。
12（日）●紡績連合会、日露戦後の不況による綿糸価下落で第五次操短開始（三カ月間月五昼夜休業）。
13（月）●英国人飛行家・ファルマン、セーヌ河畔で一キロ周回飛行に成功。欧州での最長距離。
14（火）●蔵相・阪谷芳郎と逓相・山県伊三郎、鉄道建設予算の増額めぐり対立し、ともに辞職。
15（水）●東京の郵便博物館（現・逓信総合博物館）、公開。
16（木）●田原淳、心臓刺激伝導系の「田原結節」発見。
17（金）●北海道・新夕張炭坑でガス爆発、九一人死亡。
18（土）●大阪で天然痘発生し三〇人が罹患（この年、全国で流行し、死者四二六五人）。
19（日）●日本天文学会が発足（4月「天文月報」創刊）。
20（月）●吉沢商店、東京に日本初の映画撮影所を設立。●羽仁もと子、「家庭之友」改題、「婦人之友」創刊。
21（火）●政府、酒・砂糖・石油など増税諸法案を上程。
22（水）●英労働党、社会主義路線支持を党大会で決議。
23（木）●早朝五時から代理人による診察券争奪戦が起こるなど東京帝大病院が異常人気、と新聞に。
24（金）●英陸軍・パウエル将軍、ボーイスカウト創設。
25（土）●外務省、米本国への転航めざす日本人激増のため、移民二六社にハワイ移民停止を通告。
26（日）●愛知・三重・岐阜の酒造組合連合会、名古屋での大会で酒造税増率反対を決議。
27（月）●一木喜徳郎ら、東京市区域を東京都とするなどの東京都制案を貴族院に提出（不成立）。
28（火）●ポルトガルの共和主義者が武装蜂起失敗（2月1日、国王と皇太子暗殺され立憲制復活）。
29（水）●東京市、天然痘の全市強制種痘実施を決定。
30（木）●三越呉服店、漢城（現・ソウル）出張所を開設。
31（金）●海相・斎藤実、日露戦の戦利品代わりに「日本海海戦図」二点を全国七八三校へ寄贈と発表。

ニュース・ファイル 1908

フォト＋日録で再現する366日

日露戦争で抱えた借金と軍備増強のため、政府は増税・新税を打ち出して国民の反発をかい、高揚した社会主義と労働運動は、六月の「赤旗事件」を契機に弾圧の時代を迎えた。ロンドン五輪に水泳が登場、米国ではフォードが大衆車を発売、自動車時代の幕が開いた。

◀**コッホが来日（6月12日）**ドイツの医学者で、近代細菌学の権威が、夫人（写真・中央）とともに横浜港へ。弟子の伝染病研究所長・北里柴三郎らが出迎えた。コッホ（64、左）は2カ月余滞在、天皇にも謁見した。

▲「満州」間島の統監府派出所、拡充（3月）中国人・朝鮮人の紛争頻発のため、前年来、住民保護を名目に設置。その整備・拡充をはかり、所員も20人にふえた。

▼彫刻家・荻原守衛（28）、7年ぶり帰国（2月14日）ロダンから受けた刺激を糧に、新宿・中村屋近くで創作に励んだ。10月、「文覚」で文展初入選をはたした。

毎日新聞社

▲国木田独歩、結核悪化（2月）茅ケ崎で療養中、自然主義文学者が見舞った。写真左端・正宗白鳥、中央・独歩、右隣・田山花袋。6月に36歳で死去した。

▶吉田奈良丸（24）、東京公演（2月11日）新富座で25日まで興行。得意の「義士伝」などを、上品な語り口の浪曲に仕上げ、豪放な桃中軒雲右衛門と並称された。

「イリュストラシオン」

▲3大陸横断自動車レース始まる（2月12日）米・日（神戸－静岡－敦賀）・露を経てパリまでの2万キロ。5ヵ月後、米国車が優勝。写真は、出発地点のニューヨーク。

▶日本初のトラック運送会社が創業（2月20日）東京・麹町に帝国運輸自動車が設立され、米国発注の13台がそろった10月に営業開始した。写真は第1号車。

明治41年2月

1（土）●警視庁、巡査派出所を「交番」と改称（5日、巡査の制服を詰襟・五つボタンなどに改正）。
2（日）●京都競馬場、芸妓手踊りなどで盛大に起工式。
3（月）●満鉄、軍用軽便鉄道の安奉線改築を決定。
4（火）●生糸・綿糸不振で市中銀行の資金窮迫と日銀。
5（水）●マカオ近海で清国軍が武器積載の日本船「第二辰丸」を拿捕（3月15日、解決。辰丸事件）。
6（木）●東京・銀座に外国人向け日本語学校開校。
7（金）●「文芸倶楽部」二月号が風俗紊乱で発禁。
8（土）●横浜・緑町沖の埋め立て、警官に守られ鍬入式。
9（日）●高松で全国塩業者大会。塩専売法廃止を決議。
10（月）●内務省、京都市営水道事業を認可。
11（火）●諏訪湖で日本初の公式氷上スケート大会開催。
12（水）●ニューヨーク－パリ間（日本経由）で、国際自動車競走を開催（7月、米国車が優勝）。
13（木）●御木本幸吉、真円真珠養殖法の特許取得。
14（金）●彫刻家・荻原守衛、七年間の米・仏留学を終え帰国。ロダンの作風を日本に伝える。
●四一年度予算公布。六億一五九五万円（軍事費三〇㌫）、四九一万円歳入不足の積極予算。
15（土）●川村喜十郎、東京・本所に川村インキ製造所（現・大日本インキ化学工業）を設立。
16（日）●社会主義同志会、「社会新聞」発行権をめぐり片山潜派と西川光二郎派が対立。片山を除名。
17（月）●東京・浅草の常磐座が全焼。
18（火）●移民に関する日米紳士協約成立。日本側は農業永住者以外に旅券を出さない、などを約束。
19（水）●露の軍法会議、無罪を主張するステッセル将軍に禁固一〇ヵ月の判決、と外電。
20（木）●郵便切手を発行、濃緑色五円、紫色一〇円。
21（金）●愛知・岡崎町、小学校増設めぐり反対派一〇〇人が役場前で投石騒ぎ。町会議員総辞職。
22（土）●砂糖消費税法成立、増税決まる（即日施行）。
23（日）●マッチのラベル愛好家による燐寸錦集会が、東京で全国交換大会。一枚一五円が最高。
24（月）●三井物産社員・横浜正金銀行行員など民間人六八〇人に、日露戦争の論功行賞を授与。
25（火）●写真の流行で浮世絵摺師らが転業、と新聞に。
26（水）●砂糖税増額で厳禁のサッカリンを使用する駄菓子屋増加、各署で取締り強化、と新聞に。
27（木）●田村保寿、囲碁二一世本因坊（秀哉）を襲名。
28（金）●テヘランでイラン国王暗殺未遂事件起きる。
29（土）●前年開始の樺太農業移民二百余戸が寒冷のため失敗、千余人が厳冬の中で困窮、と新聞に。

◀日本初のスケート大会（2月11日）南信日日新聞社が、諏訪湖1周レースを開催。大正5年まで国内唯一の公式競技となった。選手は全員スケート靴はなく、下駄に歯をつけた「下駄スケート」で滑走した。

「東洋婦人画報」

▲清国女子留学生、第1回卒業式（3月）東京の私立・成女高等女学校で学んだ、女子留学1期生の9人。この年、清国からの留学生は2年前の半分、5500人に減少、女子は珍しかった。

◀森田草平（27）、平塚らいてう（22）と心中未遂（3月24日）栃木県塩原の雪山で巡査が保護。森田は夏目漱石の弟子で妻子ある身。この事件は、後に森田の代表作『煤煙』にまとめられた。

▼「出歯亀」淫行（3月22日）植木職・池田亀太郎（38）は、東京で女湯をのぞいた後、28歳の人妻の帰途を襲い、暴行・絞殺。写真はあだ名が「出歯亀」の池田（前列中）と捜査官。無期懲役となった。

「警視庁百年の歩み」

▲官鉄の青函連絡船運航開始（3月7日）英国製タービン蒸気船の「比羅夫丸」（定員436人、1479トン）が就航。青森－函館を、従来より2時間短縮した4時間で結び、競争相手の日本郵船便をしのいだ。

西日本新聞社

▲三池港が開港（3月）増産続く三井三池炭鉱が、石炭輸送力増強のため、大型船が荷揚げできる港を建造した。有明海が遠浅のため、従来は石炭を小舟に載せ、外海で大きな船に積み替えていた。

明治41年3月

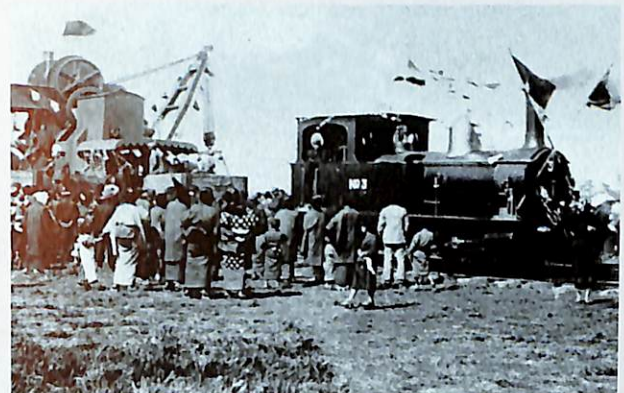
1（日）●大日本紡績連合、輸出増めざし綿糸の景品つき輸出実施（清国商人のボイコットで失敗）。
2（月）●三井物産輸入のビルマ米第一船が横浜に入港。
3（火）●東京の歩兵第一連隊で三二人が訓練の厳しさから集団脱営（18日、大阪でも一三人脱営）。
4（水）●岡山市に戦勝記念県立図書館が開館。
5（木）●時事新報社募集の美人写真コンクール、学習院にかよう一六歳の末弘ヒロ子が一等に決定。
6（金）●警視庁、田川大吉郎らの普選国民大会を禁止。
7（土）●官鉄、青森－函館間連絡航路の運航を開始。
8（日）●新潟市で出火、一一九八戸全焼。万代橋焼失（9月4日にも大火、二二二二戸全焼）。
9（月）●農商務省、牛馬虐待防止令を各県に訓令。
10（火）●北海道に大吹雪、圧死などで二三九人死亡。
11（水）●宮内省、皇太子の養蚕実施で専任技官を任命。
12（木）●高校入試の総合試験制廃止、各校別試験制に。
13（金）●パリに切手・ハガキの自動販売機が登場。
14（土）●衆院、中学で剣術・柔術教授の建議案を可決。
15（日）●東京・松屋呉服店が初の「大安売りデー」。
16（月）●石油消費税・麦酒税などの増税法公布（酒税収入が一位となり地租から間接税に移行）。
17（火）●下関で不正相場師ら四〇人が逮捕される。
18（水）●朝日新聞社主催・世界一周会五七人、横浜出帆。
19（木）●広東で辰丸事件に抗議し日貨排斥運動始まる。
20（金）●韓国と借款契約調印。五年間に一九六八万円。
21（土）●ファルマン、仏で初めて乗客一人を乗せ飛行。
22（日）●警視庁、女湯をのぞき、風呂帰りの女性の暴行殺害容疑で池田亀太郎を検挙（出歯亀事件）。
23（月）●日本の韓国保護政策を米紙で賞賛した韓国外交顧問・スチーブンス、韓国人に狙撃され死亡。
●青森－室蘭の定期船「陸奥丸」、渡島半島椴法華沖で貨物船に衝突され沈没。二三九人死亡。
24（火）●森田草平と平塚らいてう、心中未遂で塩原の山中を徘徊中に発見される（煤煙事件）。
25（水）●女子の政治集会参加を認める治安警察法改正案が衆議院で可決（26日、貴族院否決）。
26（木）●横綱常陸山、親善のため訪問の米国から帰国。
27（金）●軍艦「和泉」、辰丸事件調査のため上海出港。
28（土）●監獄法公布。独の監獄法をもとに懲役・禁固・拘留・拘置監獄に改編（10月1日施行）。
29（日）●清国政府、新民法編纂業務監督に、東京帝大法科教授・梅謙次郎を三年間招聘。
30（月）●東京府下（渋谷など）と奈良市で市内電話開通。
31（火）●大蔵省、金融逼迫打開で国債の割引償還告示。

「太陽」

▲迪宮裕仁親王、学習院入学（4月11日）明治天皇の第1皇孫、後の昭和天皇が初等科へ。国語・算術・図画・遊戯などを習った。主任は「その御勇壮、感嘆する処なり」と語ったという。

毎日新聞社

▲三越呉服店、本店新装オープン（4月1日）東京・日本橋通りの拡幅のため、旧店舗を取り壊し。木造ながらルネサンス式3階建て、建坪約500坪という、国内最大の店舗が完成した。

◀世界最大の客船「天洋丸」竣工（4月22日）東洋汽船が三菱長崎造船所に発注。日本で設計・建造された最初の豪華客船となった。タービン搭載、1万3454トン、北米航路に就航した。

毎日新聞社

▼奈良女子高等師範学校、設立（4月1日）女子師範・高女の増加で、教員養成学校の開校は急務だった。翌年、77人が入学、全員が寄宿寮に入った。

▲大阪府立職工学校が開校（4月20日）模範職工の養成校として大開町に誕生（現・西野田工高）。工場風校舎（写真）で、菜っ葉服の80人が入学式。徹底した職工教育で有名になり、受験生が殺到した。

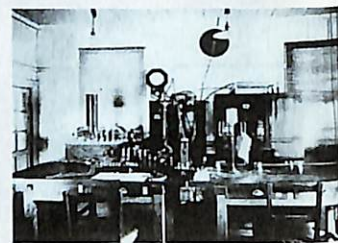
◀遠賀川改修工事始まる（4月26日）明治中期以降、流域は国の基幹産業・石炭産業で繁栄。38年の大洪水を機に、政府は治水を初めて国の直轄事業にした。写真は、浚渫機や機関車が並んだ起工式。

西日本新聞社

明治41年4月

1（水）●改正小学校令実施、義務教育四年が六年に。
●東京の白木屋呉服店、既製服を発売。
2（木）●志賀潔ら設立の癌研究会、東京帝大で発会式。
3（金）●東京市内、市区改正工事の影響で火の見櫓など江戸時代以来の名物が次々消滅、と新聞に。
4（土）●仏のルーアン洞窟で有史以前の壁画を発見。
5（日）●英、アスキス自由党内閣が成立。
6（月）●独巡洋艦隊が横浜入港、神奈川県知事を訪問。
7（火）●島崎藤村、小説「春」を「東京朝日新聞」に連載開始（～8月19日、10月に刊行）。
8（水）●東京で三三チセンの降雪。交通・電信電話が大混乱。
9（木）●政府、九州鉄道買収額決定、一億一八五〇万円。
10（金）●陸軍刑法・海軍刑法を改正公布。ともに、叛乱罪・逃亡罪・掠奪罪など一一の罪を制定。
11（土）●三越呉服店前の活動写真に数千人が殺到。
12（日）●内相・原敬、地方官会議における秘密会で社会主義者の取締り強化を訓示。
13（月）●肥料取締法を改正公布。検査基準など厳密化。
14（火）●デンマーク、普選法成立。二五歳以上の納税者。
15（水）●トリック撮影による初のフランス空想科学映画「月世界旅行」を東京の錦輝館で上映。
16（木）●大日本・横浜・神戸精糖の三社が生産協定。
17（金）●第一生命、最高保険金一万円を二万円に改定。
18（土）●東京府、コレラ予防で井戸・便所の清潔、患者発生時の消毒、患者隔離の徹底を訓令。
19（日）●広東の日貨排斥で海産物輸出壊滅、と新聞に。
20（月）●台湾縦貫鉄道（基隆―台南間）が全線開通。
21（火）●白丸屋、フレーベル館と改称、絵本など出版。
22（水）●三菱造船、一万トンを超す世界最大規模の客船「天洋丸」竣工。日本初のタービン機関搭載。
23（木）●バルチック北海会議開催。独・露・デンマークなどバルト海沿岸諸国間の現状維持を保証。
24（金）●文部省、前年完成の「教育勅語」英訳に続き仏・独訳も完成し各国に配布予定、と新聞に。
●諏訪湖の湖底にある曽根遺跡で石器を発見。
25（土）●小栗風葉の小説『恋ざめ』が風俗壊乱で発禁。
26（日）●オーストリアで第一回国際精神分析学大会を開催。フロイトが精神分析論を報告。
27（月）●福沢桃介ら実業家二〇〇人が実業同志会結成。
28（火）●第一回ブラジル移民船「笠戸丸」、七八一人乗せ神戸を出航（6月18日、サントス入港）。
29（水）●東京の小学校でポルカダンス流行、と新聞に。
30（木）●練習艦「松島」、澎湖島・馬公軍港で火薬庫が爆発し沈没、練習生ら二〇六人死亡。

毎日新聞社

◀芸妓美人投票1位は万竜（4月2日）「文芸倶楽部」が主催、9万票獲得した万竜（18）の人気が東京・赤坂で沸騰。人気俳優・市川左団次でも会えなかった。彼女は後に早大教授と結婚する。

▲日本初の洋上無線局誕生（5月16日）逓信省は船舶の安全航行をはかるため、銚子に海岸局（写真）、客船「天洋丸」に船舶局を開設。洋上交信に成功し、本格的な無線電信時代を迎えた。

▼ロンドンで英仏博覧会開催（5月14日）3国協商を結ぶ2国が共催。運河をめぐらした会場を、観客はゴンドラで移動（写真）。初日には12万人が押しかけた。

証言・あの日この日
森　鷗外（46）

6月16日（土）　〈午後二時Koch夫妻を上野音楽学校に迎接し、師の講演を聴く。夕に又二人を歌舞伎座に延いて劇を観す。驟雨あり、雹を降らす〉（森鷗外『鷗外日記』）

鷗外は、この頃、念願の軍医総監に就任し、得意の絶頂にあった。ちょうどこの年6月、ドイツ留学時代の恩師で、3年前に結核菌の発見でノーベル賞を受賞したばかりの細菌学者・コッホが来日した。鷗外は、北里柴三郎とともに接待役をつとめる。この日は、昼間上野音楽学校でコッホの講演があり、通訳は北里がつとめたが、夜は歌舞伎座で観劇が行われ、鷗外が説明役をつとめた。ところでこの頃「臨時脚気病調査会」が設立され、鷗外も委員に選ばれた。鷗外は頻繁にコッホを訪問し教えを請う。コッホの影響もあり、鷗外は「伝染病説」を主張したが、後に原因は栄養失調であることが判明する。　（山崎行太郎）

呉市企画部海事博物館推進室提供

◀旧露艦「文月」が進水（5月2日）明治38年、旅順港で捕獲した駆逐艦を、対馬の海軍要港・竹敷で修理。雨中に祝典を行った（写真）。大正3年、青島攻略に参戦後、廃艦となった。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

▶満鉄、軌間を統一（5月30日）日本軍やロシアなど、所有者ごとに異なった従来の軌間を、国際標準に改良、全線の直通運転化をはかった。写真は標準（左）と狭軌両機関車。機関車や列車は、米国に大量発注された。

明治41年5月

1（金）●二葉亭四迷が朝日新聞社に入社。
2（土）●全国連合かるた大会を東京の錦輝館で開催。
3（日）●上野動物園、初の日本ザル人工哺育を開始。
4（月）●警視庁、「三井物産大損失」などの流言を株取引関係者に流す五人を検挙。
5（火）●ワシントンで日米仲裁裁判条約に調印。
6（水）●東京・大阪・神戸―九州間の長距離電話開始。
7（木）●農商務省、産牛奨励規程を公布。
8（金）●歩兵六三連隊など一〇個連隊に軍旗親授。
9（土）●中国革命同盟会、雲南省河口で反清武装蜂起（26日、失敗しベトナムに逃亡。河口事件）。
10（日）●長野県庁焼失（26日、松本で誘致運動起きる）。
11（月）●米国・ノースダコタ州で排日暴動。六〇日以内に日本人の州外退去を州政府に要求。
12（火）●大蔵省、銀行の休業続く神奈川県に調査を指示（7月までに全国の中小四七銀行破産）。
13（水）●浪曲の桃中軒雲右衛門、東京・本郷座で公演。
14（木）●ロンドンで英仏博開幕、初日一二万人来場。
15（金）●三光堂、輸入レコードを初の三割引き販売。
16（土）●初の海岸局、銚子無線電信局が業務開始。
●吉原の遊客、不景気で前年比二三％減の三万六千余人、金額は二〇％減の六万円と警視庁。
17（日）●戊辰戦争時の弾痕を残す上野・黒門を、帝室博物館から三ノ輪の圓通寺に移転し除幕式。
18（月）●初の鋼鉄製油槽船、日本石油の「宝国丸」進水。
19（火）●露歌手のシャリアピン、パリ・オペラ座初出演。
20（水）●東京音楽学校のオペラ公演に文部省が中止命令、男女共演と校内での上演が問題、と新聞に。
21（木）●浅野総一郎、横浜・生麦沖に造船所建設を申請。
22（金）●米国のライト兄弟、「飛行機械」で特許取得。
23（土）●奈良・法隆寺、寺の維持費捻出のため国宝・百万塔の一部を希望者に売却、と新聞に。
24（日）●東京倉庫、神戸に日本初の鉄筋コンクリートによる倉庫建設。
25（月）●文部省、臨時仮名遣調査委員会を設置。
26（火）●イラン南西部で英国人実業家・ダーシーが、石油採掘に成功（中東石油開発の第一歩）。
27（水）●海軍工廠で職工団体、工友会が発足。
28（木）●海軍大学校内に日露戦記念の海軍参考館開館。
29（金）●ベーリング海で操業中の漁船「三重丸」、領海侵犯で露警備艦に拿捕される（三重丸事件）。
30（土）●南満州鉄道、標準軌化工事が完了し開通。
31（日）●郵便配達の利便上、各戸に住所・氏名記載の表札を掲出のこと、と逓信省が新聞で告示。

▲**森鷗外(46)「新仮名遣い」に反対(6月26日)**前月、臨時仮名遣調査委員となり、文部省の機械的簡略化に、意見書(写真左)を自費出版してまで反対した。

「太陽」

▼韓国で親日派1000人殺害(6月)統監府が発表。反日「義兵」の激化で、親日派の朝鮮人団体・一進会が標的にされたという。写真は、一進会の会員。

▶ハノイ兵営中毒事件、失敗(6月)仏からの独立めざす過激派が、仏軍の宴会に毒をもり、混乱に乗じて首都占拠を計画。13人が逮捕、さらし首にされた。

▲二葉亭四迷、ロシアへ(6月6日)「東京朝日」特派員としてペテルブルグへ出発。写真は上野の送別会、前列右から3人目が四迷(44)。翌年5月、客死した。

▲「赤旗事件」起こる(6月22日)神田・錦輝館での集会に「無政府共産」の赤旗を掲げた一団が登場。荒畑寒村ら14人が逮捕され、政府に社会主義者への弾圧強化の口実を与えた。写真は逮捕前の大須賀里子(左)・堀保子と赤旗。

オリオン・プレス

▲『赤毛のアン』刊行(6月)モンゴメリー(34、写真)が故郷・カナダのプリンス・エドワード島を舞台にした、夢と希望の物語を展開。爆発的な人気を呼んだ。

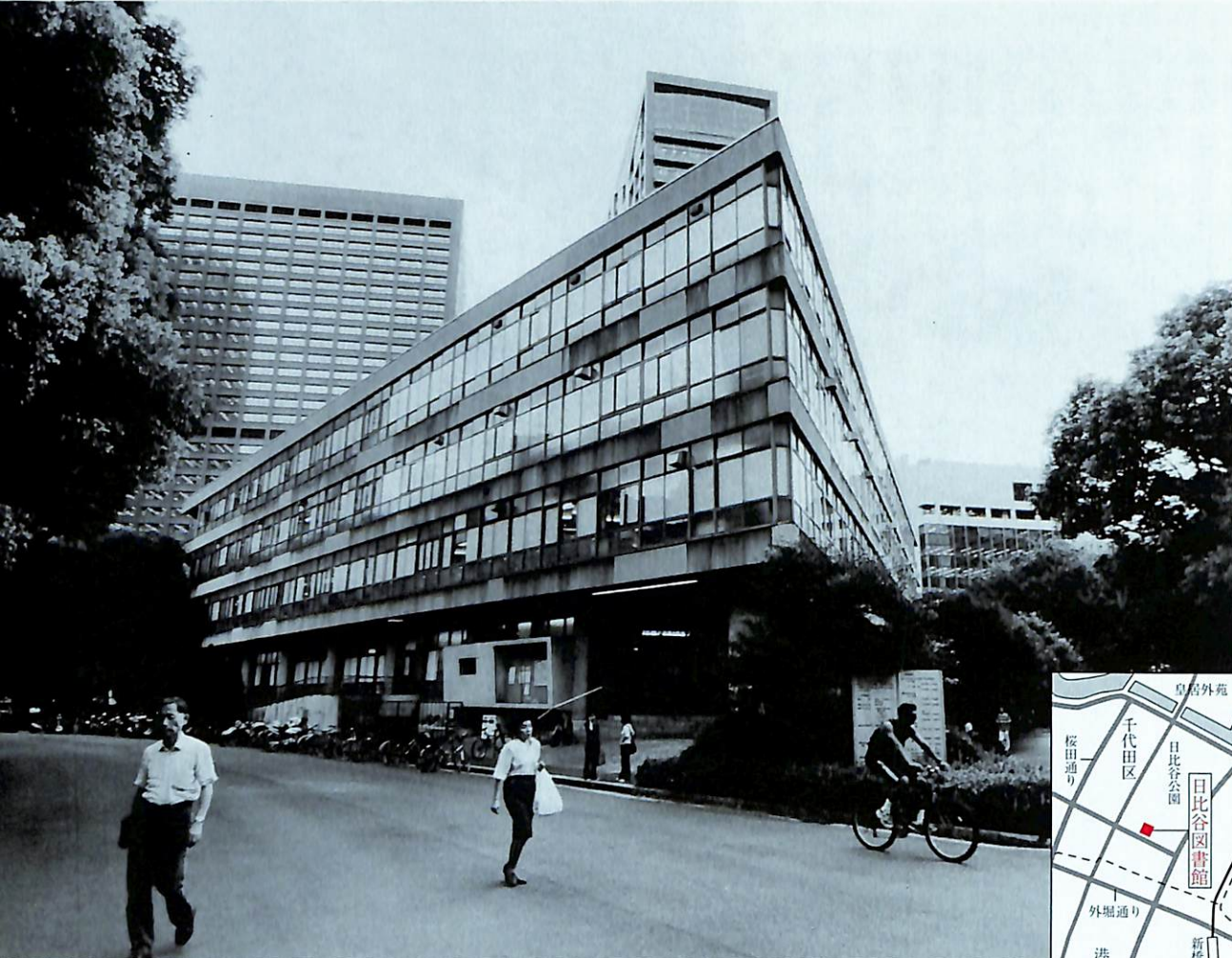
明治41年6月

- 1(月) ●焼津—京都・大阪間で初めて冷蔵貨車使用の鮮魚輸送開始(17日、青森—上野間でも)。
  ●臨時脚気病調査会が発足(会長・森鷗外)。
  ●愛知・金城女学校の地久節式典で「君が代」の代わりに賛美歌を歌う(不敬として問題化)。
- 2(火) ●大阪の友禅職人ら一八〇〇人、不景気による賃下げに反対しスト(9日、賃金復旧で解決)。
- 3(水) ●振替貯金払出用紙の金額変造が増加、逓信省は防止策で一六日から新用紙に変更と新聞に。
- 4(木) ●凸版印刷創立総会、株式会社に改組を決議。
- 5(金) ●横浜電鉄の従業員、賃上げ要求しスト。
- 6(土) ●仏、別居三年以上に離婚認める新離婚法制定。
- 7(日) ●義勇艦第一船「桜丸」、三菱長崎造船所で進水。
- 8(月) ●関東地方に鶏卵大の降雹。人力車の幌にも穴。
- 9(火) ●東京・神楽坂で勧工場改装のヤマトデパートが開店。各店舗で価格を統一するなど近代化。
- 10(水) ●首相・西園寺公望、官邸に英大使ら四〇〇人招き晩餐会。余興に川上音二郎一座が上演。
- 11(木) ●韓国統監府、韓国人補助憲兵を募集。
- 12(金) ●細菌学者・コッホが来日(8月24日、離日)。
- 13(土) ●静岡の対露製茶輸出が好調、前年の四割増。
- 14(日) ●独、戦艦四隻を毎年建造する艦隊法が成立。
- 15(月) ●名古屋に新設の第八高校、校舎建築工事の入札失敗。市内の小学校校舎で開校、と新聞に。
- 16(火) ●三三歳の脱営兵が吉原で娼妓とピストル心中。
- 17(水) ●一五日の川上眉山の自殺は文士の生活難として、「東京朝日新聞」が家計などを詳細分析。
- 18(木) ●東京歯科医師会発足。無資格の入歯師が失職。
- 19(金) ●東京・銀座の岩谷商会が家庭用・営業用・携帯用など六種の冷蔵庫を発売、と新聞に。
- 20(土) ●東洋硝子、ベルギーの技術者三三人を招聘。
- 21(日) ●ロンドンで女性参政権要求の二五万人デモ。
- 22(月) ●荒畑寒村ら、東京・神田で「無政府」の赤旗掲げ警官と衝突、検挙される(「赤旗事件」)。
- 23(火) ●ペルシャ国王、露援助の反共和制革命に成功。
- 24(水) ●露政府、北洋の密漁防止強化で軍艦四隻巡遣。
- 25(木) ●原敬内相、天皇に社会主義取締り状況を上奏。
- 26(金) ●横浜の生糸相場急騰、二年前の価格に回復。
- 27(土) ●東京瓦斯、大森で大規模工場の地鎮祭を挙行。
- 28(日) ●横浜市平沼の漁民一五〇人、南北石油社の油粕投棄に、防止策と損害賠償を要求。
- 29(月) ●ローマ法王、米国を布教地域から除外と宣言。
- 30(火) ●海軍軍令部編『明治三十七・八年海戦史』刊行。
  ●シベリアのツングースカに巨大隕石が落下。

「現場」を歩く 日比谷

東京で初の〝公立〟日比谷図書館の利用者に見る少子化と高齢化社会

山本徹美

▲日比谷図書館の年間利用者数は、同じ都立の中央図書館に比べて2倍以上。理由として、子どもが閲覧でき貸し出し可能、なにより便利な場所にあることがあげられる。 但馬一憲

明治四一年一一月一六日、東京市立日比谷図書館が開館、同二一日、市民に公開された。「東京朝日新聞」(同月二三日)がその模様を報じている。

「午前九時より公衆の縦覧を公許した日比谷図書館は非常な盛況で館長始め事務員二十余名は特別、普通、児童、新聞、雑誌等、入館者思い思いの閲覧券並びに図書の交付に忙殺されている」

それまで東京には、「大橋図書館」「南葵文庫」など私立の施設があるのみ。東京市会に市立図書館設立建議がなされたのは明治三七年三月である。同三九年七月、一三万三一八〇円の建築予算が決定。設置場所は日比谷公園敷地内に約一九八〇平方メートルを確保、三橋四郎東京市技師が設計を担当、木造二階建てで、延べ床面積は約六九三平方メートル。一階はヌーボー式、二階はコリント式の洋館となった。蔵書は一二万五〇〇〇冊で、うち一〇万冊が洋書だった。

閲覧室は、新聞にあるように五室。公立図書館だが、利用は有料で、特別閲覧室が一回四銭、同じく普通が二銭、ほかは一銭だった。大正四年に児童の閲覧料が無料となり、以後、残る四室も無料化される。五室の定員総計四一〇人に対して、週末には一二〇〇人を超える閲覧者が押し寄せ、大混雑であった。

利用者は子どもから老人へ

日比谷図書館を訪ねてみた。創設時の洋館は昭和二〇年五月、戦災で焼失。現在の〝三角ビル〟は、昭和三二年に新築された。当初は地上三階、地下一階だったが、同三六年に四階部分を増築。鉄骨鉄筋コンクリート造りで、敷地面積約二七六七平方メートル、延べ床面積一万一五四平方メートル。平成一〇年現在、蔵書は約三〇万冊。閲覧席は四四七と、開設時と大差ないが、利用者は一日平均二九七七人、年間約八八万人にのぼる。

「特徴は書籍の館外貸し出しと、映画やレコード、CDなど視聴覚資料の貸し出しを行っている点でしょう」(同館員)

館外貸し出しの歴史は古く、明治四三年六月から始まっている。平成九年度の個人館外貸し出し冊数は、約三〇万冊で、一日平均一〇二〇冊。同じく、一六ミリ映画は二八八五巻、CDは一万八八七二枚がそれぞれ貸し出されている。

ちょうど夏休みとあって、一階に設けてある「こども室」には、母子連れの姿が数組、見受けられた。東京における児童図書館活動はここから始まったとされている。もっとも、少子化と都心在住者の減少により、子どもの利用者は激減。昭和五〇年、児童登録者(貸出券)は九四〇人だったが、平成九年には二三三人に。貸し出し図書も一万六六一九冊が一〇一〇冊へ。

三階の社会人専用閲覧室をのぞくと、満室でしかも九割が老人。ここに現状と将来が集約されているようにも思えた。

▲日比谷図書館設立を積極的に推進したのは、東京市長・尾崎行雄。

ベストセラー

鏡花、花袋、荷風それぞれの“幻想”“告白”“耽美”の世界

この年、文学史上大きな意味を持つ三つの作品が、単行本におさめられ刊行された。泉鏡花の『高野聖』、田山花袋の『花袋集』、永井荷風の『あめりか物語』である。

二月刊行の『高野聖』におさめられた同名作品は、すでに明治三三年に雑誌発表されていたが、泉鏡花がみずからのファンタジー世界を確立した小説であり、日本の幻想文学を代表する作品のひとつとして、今や古典的名作の地位を得ている。旅の僧が、かつて体験した奇妙な出来事を、寝物語に話して聞かせるという構成で、次はどうなるのかと読者の興味をかきたてた。「婦人も何時の間にか衣服を脱いで全身を練絹のやうに露はして居たのぢや。何と驚くまいことか」といった調子で幻想譚を展開した。

また、この年刊行された『花袋集』には「蒲団」がおさめられていた。妻子のいる作家と、内弟子に入った若い女性との微妙な関係を描いた小説で、作者自身の体験を淡々とストレートに叙述したことから、いわゆる「私小説」の出発点と目される評価を得た。若い女性が自分のもとを離れていった後で「兎に角時機は過ぎ去つた。彼の女は既に他人の所有だ！」と納得しようとするものの、「歩きながら渠はかう絶叫して頭髪を掻つた」と深い悲しみにおちいり大いに悩む。その大胆な心情の告白が、後の自然主義作家に大きな影響を与えた。

一方、永井荷風は明治三六年にアメリカに向けて出発、同四〇年フランスに渡るまでの期間、いろいろな雑誌に発表していた短編をこの年『あめりか物語』として上梓した。「私は今や計らずも此の淋しい海の上の旅人になった。そして早くも十日ばかりの日数を送り得た處である」という設定の「船室夜話」のほか、「酔美人」「長髪」「悪友」などの洒落た短編がおさめられていた。若き谷崎潤一郎がこの作品集にひどく感動したのも、よく知られたエピソードである。

▲『高野聖』（佐久良書房、75銭）

▲『あめりか物語』（博文館、65銭）

日本近代文学館提供（三点とも）

◀『花袋集』（籾山書店、95銭）

スターと名場面

「己が罪」「本能寺合戦」など日本でも劇映画製作進む！

新しいエンターテインメントとしての映画に、輸入・製作会社の吉沢商店などが次々に新機軸を打ち出していた。この年、吉沢商店は、カメラを気鋭の千葉吉蔵にゆだね、中野信近を出演させて「己が罪」を製作・公開したが、海岸シーンを神奈川・片瀬海岸のロケで撮影するなど、映画製作も本格化のきざしを見せた。一方、京都の横田商会では、後に日本映画界を支えた牧野省三の初監督作品「本能寺合戦」を製作・公開した。

また、世界を股にかけて、政治的にも活躍していた梅屋庄吉のエム・パテー商会は、映画興行の世界に新風を吹きこんでいたが、この年初めて輸入映画興行から一歩踏み出し、少女歌舞伎による「曽我兄弟狩場の曙」を製作・公開した。エム・パテー商会は、フランスの映画会社・パテーと輸入特約を結ぶ一方、文化映画もさかんに輸入・上映し、文化教育活動にも力を入れていた。翌明治四二年には、新宿にエム・パテー撮影所を設立している。

外国映画の方では、この頃日本公開されていたと思われる作品のひとつに、フランスのフェルディナン・ゼッカの作品がある。「或る犯罪の物語」は明治三四年製作だが、ギロチンが仕掛けとして用いられるなど、随所に新しさを感じさせるものだった。

▲「己が罪」の撮影風景。手前に見える線は、カメラに写る範囲を示したもの。

▶「或る犯罪の物語」で、犯罪者がまさにギロチンにかけられようとしているシーン。

ジュネス企画提供

▼時代の風雲児でもあった、エム・パテー商会の梅屋庄吉（左）。中央は孫文。

モノ語り'08

評判を呼んだ“新機能”商品！「サクラノーブル」「甲掛足袋」、英国製自転車の「ダーズリイ・ペダースン」

▼国産の本格的ハンドカメラが人気　この年、小西本店（現・コニカ）が発売した「サクラノーブル」は、感光材としてキャビネ判の乾板を使用する本格的なカメラだった。また、ボディ底部にアオリ装置がつき、前蓋（ベッド）の上げ下げができるハンドカメラである点も評価され、人気カメラとなった。ボディは木製に革張りで、シャッターとレンズ部分はレンズボードごとはずすことができ、交換可能だった。
日本カメラ博物館蔵／大畑俊男

▲機能性を追求した履物の登場　冬場の山仕事や畑仕事などの履物には、防寒と同時に、動きやすさが必要とされるが、この頃売り出された「甲掛足袋（こうがけたび）」は、そのようなニーズにこたえたもので、草鞋（わらじ）の上に履いて用いた。やがて生まれる地下足袋（じかたび）の原形にもなった。
日本はきもの博物館蔵／石井美雄

▼玩具の市電が走った　この時代に発売されたブリキの玩具に、「市電まわり」がある。レバーをまわすと、2台の市街電車がチンチンと音をたてながら、トンネルを出たり入ったりする。お米をかついでいる人や馬に乗った巡査、それにガス灯など、当時の風俗がきれいにプリントされていた。
北原照久コレクション提供

▲変速システムを持った自転車　この頃日本に輸入されたイギリス製の「ダーズリイ・ペダースン」は、内装3段変速機構を持つ自転車として、発表と同時に評判を呼んだ。サドルが網でできていて、しかも乗り手の体格に合わせて上下できるようになっているところにも大きな特徴があった。写真は、1908年製のもの。　自転車文化センター蔵／楠田守

◀電気アイロン以前の簡易アイロン　明治末年、どの家庭でもさかんに用いていた道具に「コテ」がある。炭火の中で熱してから、布のしわを伸ばしたり、折り目をつけたりするのに用いられた。小まわりが非常によくきくので、和服の縫い目や細かい部分の仕上げ用として、長い間、重宝がられた。
五十嵐健治洗濯資料館蔵／太田公平

コレクターに珍重されたボタン

日本では和服が一般的だった時代に作られたボタンは、市場を海外に求めた。写真のボタンは「サツマ・ボタン」の名で知られたボタンで、海外のコレクターの間で珍重されていた。貫入と言われるひび割れを入れて、薄いベージュの釉薬をかけ、その上に多色の絵付けをほどこしたもので、独特の技法によって、江戸時代の人物や花鳥が描かれているところが評判を呼んだ。

1870年代に旧薩摩藩の職人の手で作られたのが最初だが、いったんすたれ、この頃再び同じ技法で作るようになって、海外に輸出したものである。

ボタンの博物館蔵／渡辺充俊

◀日本でもボタンが作られていた　まだ洋装が一般に普及していなかったこの当時、ボタンなどの洋装部品はすでに製造されていた。中でも、奄美大島やニューギニア、フィジーなどで採取した、夜光貝や高瀬貝、蝶貝を原材料とした「貝ボタン」は美しく、欧米諸国への輸出商品としても評価の高い洋装部品だった。

人物クローズアップ

川上貞奴（三七）
欧米興行で見た俳優の地位「帝国女優養成所」を創設！

◀明治35年の帰国以来、国内各地を巡演。40年に女優養成所視察のため渡仏と、体を休める暇のなかった貞奴が、自宅でくつろぐ。

明治四一年九月一五日、女優の川上貞奴（三七）を校長とする「帝国女優養成所」の開所式が、東京市芝区桜田本郷町（現・港区）にある大場理髪店の二階で行われた。式には渋沢栄一（六八）、大倉喜八郎（七〇）、福沢桃介（四〇）らの帝劇重役に、各新聞社の芸能記者が来賓として参列。それに川上音二郎（四四）・貞奴夫妻と、女優養成所への入学を許された一五人が加わった。この席で渋沢は、次のような言葉を述べている。

「日本で三百年来賤むべからずして賤まれていたものが三つある。商人と、婦人と、俳優である。賤まれる婦人であってしかも同じく賤まれた俳優になろうというのだ。我々実業家も昔は賤まれた同士であるだけ他人ごととは思わぬ」

これは、音二郎・貞奴夫妻が俳優養成所の創設を思いたった、そもそもの動機と同じものであった。

翌日から、理髪店二階の仮教室で稽古が始まった。科目は新劇、旧劇、長唄、義太夫、鳴り物、日舞、洋舞、琴、お茶、礼法、長刀などで、それにバイオリン、声楽、英語などの授業もあった。

この養成所開設のため、貞奴は帝劇の資金補助と賛同を取り付けた。翌四二年七月、養成所は帝劇に移管されて「帝国劇場付属技芸学校」と改称され、四四年に開場する帝劇の名物演目、「女優劇」を生むことになる。

川上貞奴は、明治四年七月一八日、東京市日本橋区本両替町（現・中央区）に生まれた。本名は川上貞。明治一一年、日本橋住吉町の芸者置屋・浜田屋の女将・浜田可免の養女になった。小奴の名で半玉として花柳界にデビューしたのが一二歳の時。さらに、伊藤博文の後ろ盾で奴という名の芸者になったのは明治二〇年、一六歳の時で、伊藤のほか井上馨、黒田清隆、西園寺公望ら高位高官にも可愛がられ、人気実力とも他に抜きん出た芸者になった。その奴が芸者をなげうち、川上音二郎という書生演劇の座頭に熱をあげ、結婚したのが明治二七年のこと。

しかし、その音二郎が二度の選挙に続けて落選。新聞からは、「河原乞食が選挙などに手を出すから」と誹謗され、加えて、客の不入りで借金の山。

明治三二年四月、音二郎は起死回生をねらって欧米への演芸興行に旅だつ。この興行は、予想だにしない大成功をもたらした。ひょんなことから舞台に出る羽目になった貞は、貞奴の芸名で一躍世界的な大女優にのし上がる。アメリカでは大統領、イギリスでは皇太子が来場、フランスでは新進作家のアンドレ・ジードが、貞奴を激賞する一文を寄せた。

「パリ興行が一九〇〇年。ちょうどパリ万博で、欧米ではジャポニズムが横溢しており、貞奴人気もその一環だったと思います。そして、西洋人のオリエンタリズムが終わりを告げる時期でもあり、貞奴はその最後の煌めきでしょうか」

評論家の平岡正明氏は、欧米における貞奴人気をこう語る。

欧米興行で二人の心に強い印象として残ったものがあった。俳優の社会的地位の高さと、俳優学校の存在である。女優学校の開設は、欧米社会の実態を細見した二人が、日本社会の旧弊を破るべく突きつけた刃でもあったのである。

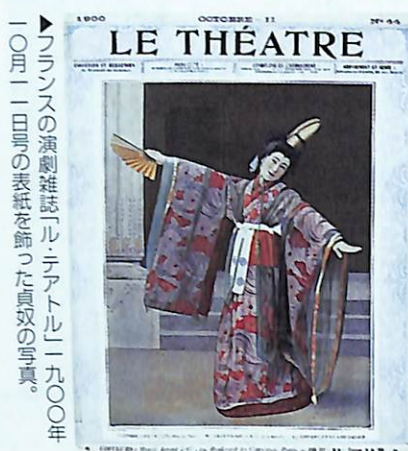
明治四四年、川上音二郎が死去。そして大正六年、貞奴は演劇界から引退し、翌年、初恋の人でもある実業家の福沢桃介と同棲。桃介の死後も永らえて、昭和二一年一二月七日、肝臓癌のため死去した。七五歳だった。

川上富司提供（三点とも）

▲音二郎と貞奴は、明治35年、茅ケ崎に3000坪の土地を購入、和洋折衷の邸宅を建てた。静かな生活を手に入れたかに見えたのもつかの間、「オセロ」上演に取り組み始める。

LE THÉATRE

▶フランスの演劇雑誌「ル・テアトル」一九〇〇年一〇月一日号の表紙を飾った貞奴の写真。

決定的瞬間

イランで中東初の大油田！英国政府に利権を奪われた銀行家・ダーシーの一夜の夢

この年の五月二六日、ペルシャ（現・イラン）南西部の「ソロモンの寺院（マスジッド・イ・スレイマン）」と呼ばれる地域の地下三六六㍍で、中東初の大油田が発見された。中東の石油生産は、これをもって始まったと言ってよい。

油田の発見者は、オーストラリア出身のイギリス人銀行家、ウィリアム・ノックス・ダーシー（五九）の命を受けた石油採掘技師、レナルズらの調査チームである。

当時のペルシャは、一七七九年に始まるカージャール王朝の支配する独立国である。しかし、一九世紀に入るとイギリス、ロシアの二大列強が同国に進出。一八七〇年代をすぎる頃には、同国は列強の圧力に木の葉のように揺れながら急速に弱体化し、列強の覇権対立の舞台へと変わっていた。同じ頃、王政批判を強めて外国勢力に対抗する民族派が伸張し、国内の情勢は、急速に不穏の度を増していった。

当時、ペルシャには有望な油田があることが知られるようになっていたが、国内外の圧力に翻弄される王朝政府は、もとより油田開発どころではない。

これに目をつけたのがダーシーだった。近い将来、石油が有望なビジネスになると確信した彼は、王朝に対して独占的石油利権の譲渡を迫り、一九〇一年、ついにその獲得に成功する。こうして、レナルズらによる油田探索が一九〇三年から開始された。

とはいえ、調査はけっして順調に進んだわけではない。むしろ、苦難の連続だった。

調査開始二年後の一九〇五年、ついにペルシャ立憲革命が起こる。これは、国民議会の開設と憲法制定、外国勢力の排除を訴えた大規模な民衆の蜂起だった。翌王朝派、革命派の間で争乱が始まり、翌一九〇六年には、革命派に屈したシャー（王）はペルシャ初の議会の開設、憲法制定を認めるにいたる。

しかし、一九〇七年、この動きに危機感を抱いたイギリス、ロシアは英露協商を結び、ペルシャを含む南西アジア地域での勢力圏を調整して両国の対立を解消し、ペルシャへの干渉を強めた。これにより革命は後退し王政復古が実現したが、混乱が沈静化したというわけではなかった。むしろ、国内にはイギリスやロシアに対する憎悪がさらに強まり、王朝の支配力が弱まったことから、反列強の民族派はもちろん、略奪を目的とした現地部族の騎馬隊が出没するなど、治安の乱れはますます加速されたのである。

ペルシャ砂漠の炎熱と砂嵐の中、レナルズらは、不穏な情勢に悩まされつつ黙々と調査を続け、五ヵ所にわたる試掘を行う。彼らの努力が実って、ついに「マスジッド・イ・スレイマン」で油田を掘り当てたのは、調査開始から五年後のことだった。

この試掘成功の報は、ダーシーだけでなく、時のイギリス政府を狂喜させた。

当時、同国政府はウィルヘルム二世（四九）のもとで、挑戦的な世界政策を推し進め急速に海軍力を増強するドイツの脅威に対抗するため、海軍力の近代化が懸案となっていたのだ。英仏協商、英露協商により対立関係を解消したイギリスの、新たな仮想敵国がドイツだった。

続々と登場するドイツの新鋭艦船に対する危惧は、日本海海戦におけるロシア・バルチック艦隊の壊滅的な敗北によって一層強まった。

イギリスは一九〇六年二月に進水した巨大戦艦「ドレッドノート」を嚆矢として、海軍の全艦艇を石炭から石油燃料に切り替えるべく石油委員会を発足させ、艦船の近代化を強力に推進し始める。大油田発見の報は、石油が国家の命運を左右する最も重要な戦略物資とみなされ始めた矢先の出来事だったのだ。

当然のごとく、イギリス政府の対応はすばやかった。陸軍中将のアーノルド・ウィルソン卿を司令官とする緊急派遣軍を送りこんで、不穏な情勢を見せる現地での、ダーシーの石油開発事業を積極的に支援し始めた。

しかし、イギリス政府の行動はそれだけにとどまらなかった。これとほぼ同時期に、ダーシーが所有する石油利権を国家管理のもとにおくための策動をひそかに開始したのである。

大油田発見の翌年、一九〇九年にイギリス政府は国策会社であるアングロ・ペルシャン石油会社を設立させる。今日のブリティッシュ・ペトロリアム（BP）の前身である。

そして、ダーシーの手から巧妙に石油利権を奪い、その権利を同社に移管した。同社はこの後、第二次世界大戦後にイランに起こった石油国有化紛争まで、その地での石油利権を独占し続けることになる。

風雲急を告げる第一次世界大戦前夜の国際情勢の中で、銀行家の一世一代の成功は一夜の夢と消えた。石油事業から追われたダーシーは一九一七年、失意のうちにこの世を去ったのである。

◀マスジッド・イ・スレイマンの油井から、噴出する原油。レナルズが、1903年から調査と試掘を開始して5年後のことだった。

▲ダーシーがペルシャ王朝から石油利権を得たのは、1901年5月28日のこと。期間は、60年と定められた。

THE BRITISH PETROLEUM COMPANY p・l・c (year of first publication) ／デジタルハウス(2点とも)

美の出会い

アジアへの憧れから構想 大谷光瑞の“幻の珍建築”「二楽荘」建設スタート

中央アジア探検史に名を残す大谷探検隊を派遣した西本願寺第二二世法主（ほっす）・大谷光瑞（こうずい）（三一）は、明治四一年三月、兵庫県武庫郡本山村岡本で、別荘「二楽荘（にらくそう）」の建設にとりかかった。ここは六甲山の中腹にあたり、眼前に広がる瀬戸内の海と背後に迫る峻険な山をともに楽しもうということから命名されたのである。工事には光瑞みずから職人の列に加わるなどの熱の入れようで、建設は急ピッチで進み、翌四二年九月に竣工（しゅんこう）する。

▲西域探検をはじめとする事業の出費がかさみ、数百万円の負債を作った光瑞は、「二楽荘」を手放してしまう。 龍谷大学図書館提供

西本願寺の第二一世法主・明如上人（みょうにょしょうにん）の長男として生まれた大谷光瑞は、明治三二年から中国、スリランカ、インドを経てヨーロッパに向かう長い旅に出た。ヨーロッパの宗教制度などの研究が目的である。二年半にわたりロンドンに滞在。帰路は「仏教東漸（とうぜん）の経路を明かにし、仏教上の疑問を氷解し、さらに地理学の研究をする」ために、中央アジア探検に旅だった。「二楽荘」は、この長い海外の旅の見聞がもとになり、仏教による興亜主義思想を唱えた光瑞の構想が存分に投影された。

設計と工事監督は、西本願寺技師・鵜飼（うかい）長三郎が担当。東京帝国大学工科大学教授の伊東忠太（ちゅうた）（四〇）が、設計段階から助言し、資料を提供してきた。この伊東が後に「建築工芸叢誌（そうし）」に記している。

「本建築は大谷伯の創意と鵜飼氏の設計監督とに由（よ）て完成せる、本邦無二の珍建築として特に之（これ）を江湖（ごうこ）に紹介するの価値ありと思惟（しい）す」

伊東はインド、イスラム、日本などの様式をまぜ合わせた真宗信徒生命保険会社や、インド様式の築地（つきじ）本願寺を設計した近代「珍建築」の元祖である。「二楽荘」は、その伊東から見ても「珍建築」だった。それではこの「珍建築」とはどのようなものであったのか、同じ「建築工芸叢誌」に発表された鵜飼の「建築概要」にそって、見ていこう。

「二楽荘」に行くには、まず傾斜角三〇度の斜面に作られた専用のケーブルカーに乗らなければならない。外観はインド・サラセン様式の二階建て。西の角にはドームをいただき、その頂点から尖塔が天空をさしている。建材は、神戸沖で沈没したイギリス船の廃材が使われた。廊下は甲板のチーク材、ドアは客室や食堂のドアが使われ、三階の円窓は船の窓がそのまま使われた。

▲イギリス様式の大食堂。「二楽荘」の各部屋の写真を、絵はがきにしたものの中の1枚。 片山章雄提供

建物の中心になっているのが、一階の書斎を兼ねた中国様式の大広間である。土間には黒い瓦が敷きつめられ、壁には中国の古碑の拓本がかけられていた。電気スタンドには大きなヘビの剝製（はくせい）がしつらえられ、見るものをギョッとさせた。そして大食堂は古代イギリス様式、客室はアラビア様式、主人の居室はインド様式、二階の喫煙室はエジプト様式と、それぞれの部屋が内装・備品にいたるまで、各国の建築や古美術の様式から採用された折衷（せっちゅう）様式である。三階に相当する屋根裏は、使用人の居間にあたり、寝室が設けられていた。

▲六甲山の中腹に建つ「二楽荘」。光瑞のアジアへの夢は、このエキゾチックで非現実的な雰囲気を漂わせている建物を基地にして、広がっていった。 龍谷大学図書館提供

本館の前には広大な庭園があり、ペルシャ風の段園を模した花壇からは、いくつもの噴水が吹き出ていた。園芸試験場として造られた下の果樹園や温室にはインドの無憂樹（むうじゅ）やヒマラヤのシャクナゲの鉢がおかれ、マスクメロンや水蜜桃（すいみつとう）などが栽培された。また印刷所や測候所のほか、英才教育をめざした私塾・武庫中学などが増設された。光瑞は、この「二楽荘」を静養や名士を紹介するための場としただけでなく、仏教研究、探検隊派遣の計画、世界各地に派遣する少年たちの教育など、彼の汎（はん）アジア構想の基地にしたのである。

ここには、大谷探検隊によってもたらされた発掘品が陳列され、明治四五年一一月二日と三日に一般公開された。この時は、二日間で合わせて三万一〇〇〇人が訪れている。

大正三年、大谷家の負債問題が本願寺疑獄（ぎごく）事件へと発展した責任をとり、光瑞は法主を辞任する。「二楽荘」は六甲山麓に居をかまえる実業家で政治家の久原（くはら）房之助（ふさのすけ）のものとなり、後に不審火で焼失する。光瑞の雄大な構想から造営されたにもかかわらず、記録はほとんど残されておらず、幻の建築となってしまった。

東京大学生産技術研究所の村松伸氏の評価は「アジア趣味の好事家（こうずか）が造ったもので、建築史から見て特に発展というべきものは見当たらない」とかなり手厳しい。しかし、光瑞の世界各地、特にアジアへの憧（あこが）れをそのまま表現したこの建築は、彼の気宇壮大さを見せつけるものだったと言えるだろう。

20世紀博物館

博物館網走監獄

映画「網走番外地」の舞台に再現された囚人生活の孤独と極限

北海道・網走市

桑原茂夫

昭和四〇年代に多くのファンを獲得した映画「網走番外地」シリーズで、その名を全国的なものにした網走刑務所の、当時の建物が博物館になっている。昭和四八年の刑務所改築にあたって、

▲執拗に脱獄を試み、ついに成功させた囚人のストーリーが、人形とともに描かれているコーナー。自由への渇望を感じさせる。

博物館網走監獄提供（4点とも）

網走市民の間から、明治二〇年代からの歴史が刻まれている刑務所（大正一一年までは「網走監獄」と称されていた）を、文化財として残そうという動きが生まれて、昭和五八年、網走湖を見おろす天都山の中腹に、野外博物館を開館させたのである。

ここには、囚人が収監される時と出所の時に渡った「鏡橋」をはじめ、炭焼きや農作業など、囚人が野外で働く時必要とされた諸施設のほか、見張り塔や懲罰房、囚人用の浴場、教誨堂などが再現され、それらが広い敷地内に点在している。「最果ての監獄」と呼ばれ、筋金入りの犯罪者をもおそれさせたという網走刑務所の、厳しい自然環境についても、資料館における歴史的展示が教えてくれる。

▲放射状五翼平屋舎房の入り口付近。中央にあるのは見張り所で、ここから5棟の様子を一目で監視することができた。

そうしたさまざまな展示の中でも際立つのが、もとの刑務所を移築・復元した「放射状五翼平屋舎房」という獄舎だ。明治四五年に建設され、昭和五九年まで実際に使用されていたもので、雑居房も独居房も、そのまま残されている。

そして囚人服を着た人形がいくつかの房に配置され、囚人の日常を見せている。独房に閉じこめられた囚人の様子や、六畳分の広さを持つ雑居房で三人が食事をしている様子などが、リアルに再現されているのである。

一部の房は開放されていて、入館者みずから房内に入って、その狭さや窓の位置、隠れることのできないトイレのありようなどを、実感することもできる。

監獄あるいは刑務所というところは、一種の極限状況の中に人をおくことで、人とはどういう存在であるかを考えさせる場所でもあるようだ。明治一四年の監獄則に記された「屏禁罰」に次のような記述がある。「囚人ヲ闇室ニ入レ飲水ノミヲ給シ人ト言語ヲ接サズ七昼夜ヲ以テ期トス」と。人と会話させないことを最も厳しい懲罰のひとつとしているのは注目に値する。そして、この記述を見て気づいた。周囲を壁でさえぎられた「孤独」が、人にとってきわめて過酷なものであり、そのことを「博物館網走監獄」は現代人に示そうとしているのではないかと。

▲雑居房の一角。囚人は別の房の囚人の様子を見ることができないが、廊下に立つ看守は、両側の囚人を同時に監視できるような格子壁になっている。

さらにもうひとつ。明治時代にこの網走の地と旭川を結ぶ道路が切り開かれたが、網走監獄の囚人たちの力なくしてはできなかったことも、ここで明らかにされている。その労働は相当きついもので、たずさわった囚人一一一五人のうち九一四人が病に倒れ、一八六人が死亡したという記録が残されている。監獄が、犯罪者を封じこめる以外に、労働力の提供というもうひとつの役割も担っていたことを、あらためて教えられた。

●博物館網走監獄

北海道網走市呼人一一一

☎〇一五二―四五―二四一一

JR網走駅から直通定期バス（網走バス、天都山線）

開館時間＝四月～一〇月は八時～一八時、一一月～三月は九時～一七時

休館日＝なし

入館料＝一般一〇五〇円（予約すればガイドを依頼できる）

▲網走刑務所正門。通称「赤レンガ門」。正面左右には、正門担当看守の受付所のほか、面会に来た家族のための待合室があった。

“甘、酸、塩、苦”以外に第5の味覚がある
池田菊苗博士が抽出したグルタミン酸ソーダを商品化
“うま味”で勝負！「味の素」製造開始

▲明治41年12月、逗子工場で本格生産が開始された。並んでいるのは、精製工程に使用された粘土製の道明寺甕。 「味の素」提供

明治四一年、世界初のうま味調味料「味の素」が誕生した。昆布のうま味成分を工場生産した「味の素」は、発売当初こそ苦戦を強いられたものの、昆布だしになじんだ関西から火がつき、次第に日本のみならず世界の台所の必需品に成長する。そして今や、「味の素」の名称は、国際語として定着することとなった。

池田博士が事業化を打診 調査結果は「大いに有望」

「これはまた、実にうまい味ですが、一体何でございますか」

一風変わった飲み物をすすり、鈴木三郎助（四〇）は、東京帝国大学の研究室で理学部教授・池田菊苗博士（四三）にこうたずねた。明治四一年二月のことである。池田は、湯呑み茶碗に二種類の白

田代眞一

▲当初は薬用の容器を使用したが、売れ行き不振のため胡椒瓶型に変更された。

▲明治38年、鈴木三郎助は、旧知のH・B・バッティが貿易商社を設立するにあたり、5万円出資。息子・三郎を1年間この会社に勤務させた。後列左から右へ、三郎助、三郎、バッティ。

「味の素」提供（五点とも）

い粉を入れ、熱湯を注いで鈴木に勧めたのである。

池田は「昆布から抽出した、グルタミン酸と重曹です」と答えた。

池田は明治三四年、ロンドン滞在中、同じ文部省留学生として知り合った、夏目漱石との交遊でも知られた人物である。

一方、鈴木は明治二一年から手がけていたヨード製造が軌道に乗り、明治四〇年、「鈴木製薬所」を設立していた。

ほぼ半年後の七月二五日、「グルタミン酸塩の調味料製造」の特許権を取得した池田は、再び鈴木を招いて、この新しい調味料の事業化を打診した。

鈴木は「甘、酸、鹹（塩味）、苦のほかに、うま味という第五の味覚がある。それがこれだ」という池田の説明に心を動かされた。が、はたしてうま味なるものが商品として成り立つのか。数ヵ月間にわたり、鈴木は調査に奔走した。

東京の「福本軒」、東京・京橋の「風月堂」など有名な料理屋で、グルタミン酸ソーダを試用してもらった。料理界の泰斗で小説『食道楽』の著者・村井弦斎（四五）や宮内省大膳寮厨司・赤堀吉松などからも意見を求めた。結論は「大いに有望」だった。

そこで、鈴木は池田に特許の共有を申し入れ、純益の二五パーセントを支払うという条件で、この年九月なかば、契約を結ぶ。

鈴木は、日露戦争中、硝酸やアルコール類も製造していた神奈川県逗子町の工場を改造し、弟の忠治（三三）を責任者とした。明治四一年一二月、総勢一〇人という細々とした体制で生産が始まったのである。

販路開拓の苦労を重ねる 関西の料亭が火つけ役に

当初、池田はこのうま味の素を「味精」と名づけていた。ところが、「酒精（アルコール）」「甘精（サッカリン）」を連想させ、薬品めいているとの意見が試作段階からあり、鈴木家で検討した結果、発売にあたっては、「味の素」と命名された。

「味の素」は、昆布のうま味成分のグルタミン酸ソーダを、小麦の蛋白質から取り出すという工業的手法で作られた。当初の製品には、塩素臭や塩辛さが残り、しかも吸水性があったため時間とともにべたつくといった欠陥もあった。だが、次第にそれも克服され、本格的に売り出されたのは明治四三年五月二〇日である。小売価格は小瓶が四〇銭、中瓶が一円、大瓶が二円四〇銭だったが、米一キロ一六銭、味噌一キロ一一銭などと比べ、割高感はいなめなかった。

値段となじみの薄さに加えて、販売ルートが未確立だったため、「味の素」の売れ行きは容易に上向かない。苦しい販路開拓の日々が続く。そこで、新聞広告、折り込みチラシ、電車の中吊りなどとともに、簡単で手っ取り早いところからチンドン屋を使うことにした。楽隊を先頭に立て、五、六本から一〇本の「味の素」と染め抜いた旗を押し立てて、街を練り歩く。鈴木の長男の三郎（当時・一九歳）も印半天を羽織ってビラを配りながら、「東西、東西ッ、味の素」と叫んで精力的に歩きまわった。仏教各派の総本山に、「鰹節を使わない純粋な精進料理ができる」と売りこんだこともあった。

「味の素」広報部によれば「全国各地のそば屋をまわり、満腹でもまずそばを食べてから『味の素』を売りこむといった苦労は、販売担当者全員が味わってます」とのこと。

「味の素」の売れ行きに火がついたのは関西からである。当時、東京の料理人の中には「誰でも使える調味料など素人向き」と公言し、「味の素」の使用に拒否反応を示すものも多かった。これに対し、大阪の料理人には東京ほどのこだわりがなく、昆布だしになじんでいたこともあり、大阪・ミナミの「梅八」や「菊の家」という一流料亭が、「味の素」をさっそく買い入れた。さらに「菊の家」では「味の素」の業務用の缶を客に見せ、誇らしげに使ってみせた。販売代理店を早々と引き受けた大手の松下善四郎商店では、支配人を先頭に、全店員が宣伝・セールスに力を入れる。

大阪での「味の素」の評判は、まもなく関西一円に広がり、やがて、東京へも伝わって、全国的に売り上げが伸び始めたのは、発売から五年以上たち、年号が大正に改まってからだった。大正二年には四〇万円にすぎなかった売り上げが、大正一〇年には四四三万円弱と一一倍に、さらに大正一五年には八〇四万円強へと驚異的な伸びを見せたのである。

現在、「味の素」をはじめとするうま味調味料の年間生産量は、国内、海外合わせて、約一〇〇万トンにのぼり、「UMAMI」として国際的に認知されている。

アメリカのコーラ、日本の「味の素」という比較論があるが、コーラは独立した飲料だから、調味料の「味の素」とは基本的に性格が違う、として評論家の塩田丸男氏は次のように言う。

「『味の素』が、世界中に行き渡ったのは、簡便さが最大の理由。手間暇がかからず、とにかくひと振りすれば、おいしくなるという点が重宝された。『味の素』は世界の台所を一変させ、そのネーミングはどこでも通用する国際語になっているのです」

海外進出に早くから目を向けていた鈴木は、大正三年九月、販路拡張のため、朝鮮、台湾、中国に、三郎を旅だたせている。大正六年七月には、ニューヨークに出張所を開設した。

国際市場売りこみをはかった鈴木は、さらに東信電気、昭和肥料（現・昭和電工）を設立、財界に乗り出していく。

▲明治三三年、ドイツ留学時の池田菊苗。

◀博士が昆布から取り出した「具留多味酸」。

▲街角で「味の素」の効用を吹聴する口上を述べながら、ビラを配る三郎助（左端）。チンドン屋による宣伝は、全国津々浦々で行われた。

▲明治42年11月、京橋区南伝馬町に3階建ての店舗を購入、「味の素本舗」とした。

フォト＋日録で再現する366日

毎日新聞社

▲**丸ノ内オフィス街ほぼ完成（7月）**日露戦争の戦勝記念に起工、馬場先門と鍛冶橋を結ぶ凱旋道路が完成。旧「三菱ケ原」がみごとな煉瓦街に変わった。写真奥は宮城、両側には三菱系企業が並んだ。

▲**国技館の鉄骨が完成（7月）**東京・両国の回向院境内に、相撲常設館として前年8月に起工。設計・辰野金吾。鉄材はすべて米国製で、翌年6月に完成した。

西日本新聞社

◀**九州初の競馬場（7月25日）**東洋競馬会が、戸畑に開設。盛況だったが、11月、馬券の発売が禁止されたため閉場。後に小倉競馬場に引き継がれた。

▼**青年トルコ党、無血革命（7月24日）**アブドゥル・ハミト2世が、青年トルコ党の圧力で、1876年に改革派官僚が起草した憲法の復活を宣言。トルコに、再び立憲制が成立した。写真は12月に再開された国民議会。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

▲**ロンドン五輪開幕（7月13日）**水泳が加わり、陸上100メートルで初の10秒台、10秒8が出た。写真はマラソンのゴール前で倒れ、役員に助けられるドランド選手（伊）。このため、同選手は失格に。

▶**慶応野球部、ハワイ遠征（7月11日）**前年来日した野球団の招待で、この日から1ヵ月間に、14試合を行い7勝7敗。米国本土からのサンタクララ大に次ぐ成績をあげ、慶応強しの評価が定着した。

「太陽」

明治41年7月

1（水）●森永、箱入りポケットキャラメル発売。一〇銭。
2（木）●東京帝大法科大に経済学科を新設。
3（金）●園芸研究会、八ケ岳で高山植物採集会を開催。
4（土）●西園寺公望内閣が総辞職（14日、第二次桂太郎内閣が成立）。
5（日）●東京府下の産業組合、団結のため連合会結成。
6（月）●函館─樺太間定期航路、赤字のため廃止。
7（火）●パリ裁判所、著作権保護法を映画に初適用。
8（水）●仏人・ベルティエ、女性で初めて飛行機を操縦。
9（木）●慶応野球部、ハワイ到着（8月2日、帰国）。
10（金）●農商務省、全国漁港の実態調査を開始。
11（土）●夜の東京・日比谷公園は堕落男女の野合場、毎夜十数組を密行巡査が検挙、と新聞に。
12（日）●早大師範科、中国留学生の第一回卒業式。
13（月）●第四回オリンピック・ロンドン大会が開幕し初めて水泳が登場。日本は不参加（～25日）。
14（火）●東京市、内務省の路面電車市有不認可で市長・尾崎行雄が辞表提出（9月復職）。
15（水）●仏映画「ドレフュース事件」、本郷座で上映。
16（木）●刻みタバコの品質が均一化されたとして、専売局が包紙の製造所明記を廃止、と新聞に。
17（金）●東京・神田川上流で白鉢巻の博徒ら一〇〇人が、白昼に川をはさみ対陣。警察出動で和解。
18（土）●仏グランプリ、メルセデス車が一～三位独占。
19（日）●各婦人雑誌は投稿欄が盛況だが、交際を強要する男子との文通に要注意、と新聞に。
20（月）●長崎で憲兵隊が露革命党員の家宅捜索を実施。
21（火）●英、フォークランド諸島の保護領化を宣言。
22（水）●インド政治家・ティラク、反英暴動扇動の罪で流刑（23日、これに抗議し初の政治スト）。
23（木）●陸軍、平坦な東京─青森間で自動車二台による初の走行試験開始（8月21日、東京に帰着）。
24（金）●露の軍事法廷、「三重丸」の船員六人に、露兵に暴行したと死刑宣告（10月、特赦、放免）。
●青年トルコ党の要求で、国王、憲法復活を承認。
25（土）●池田菊苗、グルタミン酸塩調味料の製造特許取得（12月、鈴木三郎助、「味の素」を製造）。
26（日）●第一回関西中学庭球大会を大阪・浜寺で開催。
27（月）●初の米国女学生観光団八人が横浜に入港。
28（火）●全国五商業会議所、米国実業家招待を決定。
29（水）●東京の大崎、渋谷などで乳牛の疫病見つかる。
30（木）●内務省、大阪市電の八月一日開業を認可。
31（金）●仏首相・クレマンソー、パリ郊外の労働者デモに対し弾圧強行。二人死亡、二〇〇人負傷。

証言・あの日この日
石川啄木（22）

11月6日（金） 〈今日"明星"終刊号の発送をするから、暇なら手助つてくれぬかといふ与謝野氏の葉書があつたので、八時頃から小川町の明治書院に行つた。程なくして与謝野氏も来た。あはれ、前後九年の間、詩壇の重鎮として、そして予自身もその戦士の一人として、与謝野氏が社会と戦つた明星は、遂に今日を以て終刊号を出した〉（石川啄木『石川啄木日記』）

函館、札幌、小樽と放浪していた啄木は、文学への夢を捨てきれず、この年4月、妻子を函館に残して単身上京する。上京した啄木がまず最初に訪ねたのは、「明星」を主宰する与謝野寛・晶子夫妻の家であった。しかし、北原白秋ら若手の文学者たちに去られた「明星」は、自然主義の台頭に押されて、すでに終末期を迎えていた。そして、この日、終刊号を発送する。（山崎行太郎）

▶**大阪市電、本格的に開業（8月1日）**市内中心部を縦横に貫通する、第2期線の東西線（九条二番道路─四ツ橋）と、南北線（梅田─恵美須町）が開通。第1期線複線化も終わり、市電時代を迎えた。

▲**自動車11台で遠乗り会（8月1日）**有栖川宮が提唱の自動車普及のための催し。東京・麹町の宮邸から立川まで、国旗を掲げる多数の見物人の中を走った。写真は、立川手前で休む一行。

▶**コンゴがベルギー領に（8月）**1885年以来、国王・レオポルド2世（73、写真）が、私的に所有。過酷な収奪に対する欧米の非難に抗しきれず、国家移管を表明。11月、議会が承認した。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

塩田武史提供

▲**日本窒素肥料、設立（8月）**野口遵が経営する曾木電気と日本カーバイドが合併。翌年、水俣に肥料工場（写真）が完成し日本初の石灰窒素を製造。戦後、水俣病を引き起こした。

▶**札幌駅が上棟式（8月30日）**前年10月に旧駅舎が焼失、同時に、乗降客の飛躍的な増加で、拡充が急がれた。12月、竣工。ルネサンス式木造2階建ての瀟洒な駅舎となった。

明治41年8月

1（土）●国産自動車完成記念で、第一号車所有の有栖川宮邸から立川まで初の遠乗り会。
●出口ナオ・王仁三郎、金明霊学会を大日本修斎会（後の大本教）に改組。
2（日）●岡倉天心、「奈良美術研究の必要」を発表。
3（月）●東本願寺能舞台、醍醐寺金堂、日光東照宮などが特別保護建築物に指定される。
4（火）●一分一秒を争う世の中、これからは乗用・運輸方面に自動車は必需品、と新聞に。
5（水）●独・ツェッペリン伯、新発明の気球船飛行成功。
6（木）●ワシントンに日本人学校開校。
7（金）●米・綿など値上がりしたが、麦・木材など値下がりし物価の低落傾向続く、と新聞に。
8（土）●東海地方に台風、富士川氾濫で列車立ち往生。
9（日）●永井荷風、『あめりか物語』刊行。
10（月）●警視庁、猥褻物大量押収、百余人検挙（～12日）。
11（火）●英王・エドワード七世、独皇帝・ウィルヘルム二世と会談し独建艦縮小を要請。独は拒否。
12（水）●満鉄の「神戸丸」、大連─上海間を初航海。
13（木）●鉄道庁緊縮策で九州の各駅は物不足と新聞に。
14（金）●広東地方が、暴風雨で死者五万人、と外電。
15（土）●独・プロイセンで初めて女性に大学入学許可。
16（日）●隅田川で報知新聞社主催・全国水泳競争大会。
17（月）●世界初のアニメーション映画をパリで上映。
18（火）●東京電気、川崎に電気ソケット工場を設置。
19（水）●米海軍がハワイのパール・ハーバーで世界最大の軍港建設に着手、と新聞に。
20（木）●曾木電気、日本カーバイド商会と合併し日本窒素肥料（現・チッソ）と改称。大阪に本社。
21（金）●在米日本人・竹内鉄五郎ら労働同盟会を結成。
22（土）●新潟県下で恙虫病蔓延、治療法不明と新聞に。
23（日）●愛媛県越智郡などの農民、四阪島精錬所の煙害で住友と交渉（25日、決裂し紛争激化）。
24（月）●河上肇、京都帝大法科大講師に就任。
25（火）●警視庁、株券偽造団一二人を東京・下谷で逮捕。容疑者には弁護士・警部巡査・著述家ら。
26（水）●上野駅に花売り少女登場。送迎用の花を販売。
27（木）●東洋拓殖株式会社法を公布（12月に設立）。
28（金）●財政緊縮・非募債・国債償還を柱とする財政整理方針を閣議決定。
29（土）●北里柴三郎、臨時脚気調査会の細菌部担当に。
30（日）●歩兵連隊合同演習で初の足柄・箱根越え実施。
31（月）●文部省、中学の英語授業を一週六～七時限にふやすなど、英語教育の抜本的改善案を策定。

▲**鳩山一郎が結婚（9月）**新婦は横浜裁判所判事の長女で、女子学院出の才媛・薫（19）。鳩山は弁護士修業中の25歳だった。父親の和夫と同じ政治家を志し、昭和29年に念願の首相に就任した。

▼**新潟大火（9月4日）**午前1時頃、新潟市古町から出火。東南の風にあおられ、市役所、警察署、郵便局などを含む中心街2122戸を焼失した。半年前にも1198戸を焼く大火にあったばかりだった。

▲**正岡子規七回忌（9月19日）**子規の住んだ東京・根岸の子規庵に、弟子が集合。左から3人目・伊藤左千夫、右から6人目・斎藤茂吉。10月「阿羅々木」（翌年「アララギ」に改題）を創刊した。

◀**東京帝室博物館・表慶館が竣工（9月）**皇太子成婚を祝して市民の資金を募り、明治34年起工。赤坂離宮で知られる片山東熊が設計、ネオ・バロック様式の建物となった。貴重な明治建築として現存。重文。

◀**「煩悶引受所」大受け（9月）**東京・浅草の真言宗密蔵院が、7月に「煩悶慰安」を掲げたところ、身の上相談に訪れる人々が殺到。翌年には、「読売新聞」が月刊『慰安之友』を発刊することになった。

▲**尾上松之助、映画デビュー（9月17日）**横田商会製作、牧野省三監督、小川真喜多撮影「本能寺合戦」が東京・神田の錦輝館で公開。人気俳優「目玉の松ちゃん」の誕生だった。写真は、公開時のチラシ。

『新潟の百年』／新潟日報事業社

明治41年9月

1（火）●夏目漱石、「三四郎」を「東京朝日新聞」に連載。
2（水）●日本大博覧会、明治四五年開催予定を五〇年に延期する勅令公布。財政緊縮のため。
3（木）●ワシントン大野球部が来日、早慶と対戦。
4（金）●関西学院神学校（現・関西学院大学）設立認可。
5（土）●横浜の欧文活版工ら、労働組合の欧文会結成。
6（日）●療養中の元老・井上馨を見舞う客のため、新橋―興津間に臨時列車を運行、と新聞に。
7（月）●文部省、小学校の漢字使用制限を撤廃。
8（火）●宮岡天外一座、東京・明治座で「催眠大魔術」興行。動物催眠ほか欧米仕込みの技を披露。
9（水）●露、ポーランドの露化政策の続行を決定。
10（木）●文部省、視学官職務規程を制定。従来の府県別視学官に、全国を視察するものを加える。
11（金）●京都帝大、数学・物理学・化学の各科を設置。
12（土）●オーヴィル・ライト、滞空一時間一四分二〇秒の長時間新記録（17日、墜落事故で重傷）。
13（日）●日本売薬会社の行商隊が仏領インドシナに遠征、サイゴンなどで売れ行き良好、と新聞に。
14（月）●米国のゼネラル・モーターズ社（GM）設立。
15（火）●川上貞奴、帝国女優養成所を東京に開所。
16（水）●鳴尾競馬場、侠客による場内取締り制を廃止。
17（木）●尾上松之助の主演映画「本能寺合戦」（監督・牧野省三）、東京の錦輝館で公開。
18（金）●露人のシベリア移住増加、年四五万人と外電。
19（土）●皇室祭祀令を公布。神武天皇祭四月三日など。
20（日）●浅草に開設の密蔵院の煩悶引受所に毎日一〇人来所、婦人は恋愛相談が主、と新聞に。
21（月）●幸田露伴、京都帝大で江戸文学史の講義開始。
22（火）●清国、憲法大綱発表、九年後の議会開設を公約。
23（水）●横浜鉄道の東神奈川―八王子間が開通。
24（木）●農商務省、狩猟法規則を改正。コマドリ・メジロなど五九種の鳥類を捕獲禁止に指定。
25（金）●独兵三人が仏外人部隊を脱走、仏兵による拉致で独仏関係が緊張（カサブランカ事件）。
●閣議、日英同盟を外交の中心とし、満州（中国東北部）の現状を永久維持する方針を決定。
26（土）●京阪鉄道、大阪市電と軌道共用の契約を締結。
27（日）●東京・新富座の俳優一五人、電車を乗り継ぎ市内神社をめぐる電車競走挙行。各所に見物人。
28（月）●一〇月来日の米艦隊歓迎用の米国旗、最上品はメリヤス製で二円六〇銭、と新聞に。
29（火）●警察犯処罰令公布。警察が労働争議に介入。
30（水）●日韓瓦斯(株)が創立（11月、韓国で初点火）。

毎日新聞社

PPS

▲**「フォードT型」誕生（10月1日）**米国の自動車王・フォード（45）の開発が実り、1台2200ドルもした価格を、850ドルにまで値下げ。運転操作も簡単になり、自動車大衆化時代の幕開けとなった。

▼**ジャワに民族意識の芽生え（10月3日）**オランダ支配下のジョグジャカルタで、医学生らが「ブディ・ウトモ」の初会合（写真）。オランダに留学中の学生もこの動きを受け、東インド協会を設立した。

「東洋婦人画報」

▲**三越呉服店が「出来合い実用裂」大売り出し（10月）**バーゲンセールのはしりで、売り場はたちまち大混雑した（写真）。3月には、松屋呉服店も「大安売りデー」を開催していた。

▼**京都で3大事業起工の祝賀会（10月16日）**多数の市民が岡崎公園に参集。市が外債発行によって進める、道路拡幅・市電敷設・第二疏水開削の3大事業による京都再生の成功を祈った。

◀**米大西洋艦隊、横浜に来航（10月18日）**前年12月、世界一周演習航行のため大西洋岸を発ち、サンフランシスコを経て太平洋を横断。16隻で大航海をとげた。写真は歓迎園遊会。

京都市水道局提供

▶**榎本武揚が死去（10月26日）**自宅で療養中に死去。72歳。海軍葬が30日に行われた。軍楽隊を先頭にした自宅の向島から駒込・吉祥寺までの葬列に、沿道は江戸生まれの故人を見送る人であふれた。

「太陽」

明治41年10月

1（木）●新橋―横浜間などの急行に喫煙列車を連結。
●米国・フォード社、大衆車「T型」を発売。
●三菱合資が社制改革。銀行・鉱業・造船各部の独立採算制を実施。コンツェルン化めざす。
2（金）●文部省、暦への陰暦記載を二年後廃止と公布。
3（土）●オランダ領東インド（インドネシア）で、民族主義団体、ブディ・ウトモが初の会合。
4（日）●北海道の鰊漁、三八年以来の豊漁、と新聞に。
5（月）●満鉄、清国・京奉鉄道との連結協約に調印。
●政府、射幸心あおるとして馬券の発売を禁止。
●ブルガリア、トルコからの独立を宣言。
6（火）●オーストリア、ボスニア・ヘルツェゴビナの二州を併合（ボスニア紛争が始まる）。
7（水）●中央慈善協会（後の中央社会事業協会）設立。
8（木）●塩酸加里不足で燐寸工場の休業続出と新聞に。
9（金）●関税条約改正のための準備委員会設置を公布。
10（土）●東京の南葵文庫、一般公開式。
11（日）●全国産業組合連合大会、二〇〇人参加し開催。
12（月）●独・ハーバーら、アンモニア合成法で特許出願。
13（火）●戊申詔書発布。日露戦後の社会不安打開のため、民心の統一・節約・勤労などを強調。
14（水）●第二琵琶湖疏水開削工事起工式、大津で挙行。
15（木）●朝倉文夫「闇」、荻原守衛「文覚」が文展初入選。
16（金）●司法省、初めて全国の監獄に受刑者の指紋徴取を指示。累犯者の発見がねらい。
17（土）●一葉一〇〇円など万年青が大流行、と新聞に。
18（日）●米・太西洋艦隊一六隻、横浜に来航。
19（月）●愛知医専、抜き打ち試験に不満の三年生ら百十余人が試験拒否。全員無期停学になる。
20（火）●赤十字東京支社、自動車巡回の救護所を設置。
21（水）●北海道・幌別銅山で労働者五〇人が賃上げを要求、見張所などを破壊（鎮圧される）。
22（木）●横須賀市、芸妓税軽減を神奈川県に請願。
23（金）●取引所法改正、標準売買品に綿糸・小麦を追加。
24（土）●横浜で米艦に酒を行商・販売した一七人検挙。
25（日）●北越製紙、新潟・長岡工場が操業開始。
26（月）●独皇帝の「英国人は独に非友好的」の発言を英紙が報道し問題化（11日、独議会責任追及）。
27（火）●福島県、凶作対策で晩稲の植付け廃止を訓令。
28（水）●満鉄、初の急行列車運転を開始（週二便）。
29（木）●警視庁、売薬・花柳病広告の検閲強化を決定。
30（金）●東京市内のスリは警視庁調べで約一五〇〇人、大親分らは優雅な豪邸暮らし、と新聞に。
31（土）●日韓漁業協定に調印。日本の漁業独占始まる。

三省堂提供

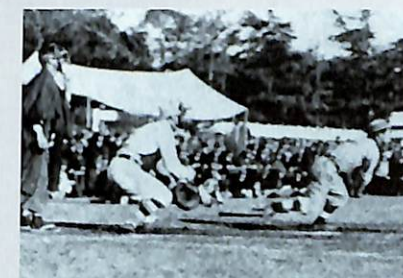
「太陽」

▲ヘディン来日（11月12日）横浜港に到着。26日には天皇に謁見、中国の都市・楼蘭の発見など、アジアの探検を語った。写真は、招待した東京地学協会の菊池大麓の歓迎を受けるヘディン（43、右）。

▶米新大統領に共和党のタフトが当選（11月3日）民主党候補者に圧勝。51歳。人気のあったルーズベルトを継ぎ、トラスト規定や累進所得税課税を実施、対外的にはドル外交を進めた。

PPS

▼神戸沖で観艦式（11月17日）明治天皇は神戸港で御召し艦の「浅間」（写真）に乗艦。東郷平八郎大将の説明を受け、初めて対米戦を前提に立案された、132隻総動員の演習を親閲した。

呉市企画部海事博物館推進室提供

▲三省堂『日本百科大辞典』刊行開始（11月21日）本格的な辞典に、出版祝賀会（写真）の出席者が、店主・亀井忠一らを激励。しかし、会社は火の車だった。

▶大リーグ選抜、来日（11月21日）22日の早大戦を皮切りに8戦全勝。大観衆の中、圧倒的な差を見せた。写真は、横浜での対慶応戦、神吉選手の初安打。

▶有楽座、開場（12月1日）「高等演芸場」として、東京・数寄屋橋近くに誕生。横河民輔が設計。冷暖房完備、観覧席はすべて椅子、洋風劇場の先駆けとなった。開場式には乃木希典、渋沢栄一ら著名人が参集した。

明治41年11月

1（日）●陸軍、新設師団の司令部所在地発表。一三師高田、一四師宇都宮、一五師豊橋、一六師京都。
●東洋拓殖㈱の株式募集、三六倍の異常人気。
2（月）●香港で日貨排斥運動が再燃。
3（火）●米大統領に共和党のタフトが選出される。
4（水）●東京美術学校、女性モデルのストで授業中止。
5（木）●京都・西陣織物同業組合、染織試験場を開設。
6（金）●与謝野寛らの「明星」、一〇〇号で終刊。
7（土）●日清電信協定に調印。
8（日）●米国の株式市場、二〇ヵ月ぶりに高騰。
9（月）●桐生織物組合、職工・徒弟ら一万人慰安会。
10（火）●初の野球専門誌「月刊ベースボール」創刊。
●東本願寺伝燈式、法主が大谷光瑩から光演に。
11（水）●新派俳優・藤沢浅二郎が東京俳優養成所設立、一回生二三人（明治43年、女子の入所許可）。
●新派映画の先駆け「己が罪」、浅草で公開。
12（木）●スウェーデン探検家・ヘディンが来日（26日参内、12月13日帰国）。
13（金）●帝国冷蔵㈱が豪の生肉を初輸入、と新聞に。
14（土）●慶応ラグビー部、横浜外国人クラブに初勝利。
●清の光緒帝死去（15日、西太后も）。
15（日）●初の全国慈善自転車大競技会、京都で開催。
16（月）●東京市立日比谷図書館が開館。
●北陸本線、米原－魚津間が全通。
17（火）●神戸沖で対米戦想定の大観艦式を執行。
18（水）●東京・赤坂溜池の埋め立て終わる。
19（木）●中国・安慶で革命派の新軍が蜂起（20日、政府軍が鎮圧、指導者・熊成基は日本に亡命）。
20（金）●欧州と日本をつなぐための、日露鉄道連絡輸送第一回会議を開催。
21（土）●三省堂、『日本百科大辞典』第一巻を刊行。
22（日）●週刊「サンデー」創刊、二〇頁。
23（月）●韓国政府、日本の祭日・新嘗祭の閉庁を実施。
24（火）●鳥居龍蔵、三年ぶりにモンゴルから帰国。
25（水）●前年から一〇月末までの韓国「暴徒掃討」で、韓国人死者一万四三五四人、と統監府。
26（木）●米国で新発明の紙製パックの製造会社が設立され、牛乳配達に使用予定と新聞に。
27（金）●英との親睦をはかる英国協会が発会。
28（土）●内務省、天理教の独立を許可。
29（日）●九月ロンドンで死去したフェノロサの追悼会を上野で開催。旧友・門弟ら一〇〇人出席。
30（月）●日・米、太平洋方面の現状維持などに関する外交文書交換（高平・ルート協定）。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

▲後藤新平、鉄道院初代総裁に（12月5日）私鉄国有化で業務が拡大したため、内閣直属の独立機関を設置。台湾総督府、満鉄の経営手腕が買われ、後藤逓信相（51）に白羽の矢が立った。

▲伊・シチリア島で大地震（12月28日）北東部のメッシナで8万4000人、本土と合わせ死者は20万人に達した。写真は廃墟と化したメッシナ市街。空前の大惨事だった。

▶ラザフォード、ノーベル化学賞受賞（12月10日）放射性元素の自然崩壊説などの研究が対象。37歳（写真右）。ニュージーランド出身、「原子核研究の父」と呼ばれた。

▲東京・小石川の伝通院本堂全焼（12月3日）午後6時頃出火、たちまち炎に包まれ家康の母・伝通院ゆかりの建物も焼失。本堂は1856年建設、関東十八檀林随一と言われていた。

▶初の黒人チャンピオン誕生（12月26日）シドニーの世界ヘビー級で、ジョンソン（30）が白人王者・バーンズを、終始圧倒して14回ＴＫＯ。場内は騒然となった。

◀「パンの会」結成（12月12日）東京・隅田川河畔の西洋料理店「第一やまと」に、北原白秋（23、写真右）、山本鼎（26）らが集まり、月2回の文芸サロンを開催した。左は会員の木下杢太郎（23）が描いた会の様子。

「イリュストラシオン」

明治41年12月

1（火）●初の洋風劇場、有楽座が東京で開場。
2（水）●清の新皇帝に二歳の宣統帝溥儀が即位。
3（木）●名刹・伝通院で火災、本堂を焼失。
4（金）●ロンドン海軍会議開催。日本など一〇ヵ国が参加し海戦法規を協議（批准されず）。
5（土）●鉄道院が発足。総裁・後藤新平。
6（日）●田山花袋の「妻」をはじめ、文壇では周囲を遠慮なく書くモデル小説が流行、と新聞に。
7（月）●毛筆のみの公文書にペン書きも認められる。
8（火）●東京の森岡商会、ペルー移民一三〇〇人募集。
9（水）●独議会、工場労働法を制定。一四歳未満の労働時間は一日六時間に制限するなど。
10（木）●英の物理学者・ラザフォード、ノーベル賞受賞。
11（金）●早大、野球界浄化策として入場料廃止を決定。
12（土）●北原白秋ら、文芸サロン「パンの会」結成。
13（日）●九州電気軌道㈱設立（社長・松方幸次郎）。
14（月）●岡山県、森林保護と農業被害防止のため、県下の野ウサギ約六万頭の捕獲を各町村に訓令。
15（火）●東京郵便局、自動車での郵便物輸送を開始。
16（水）●商船学校生六〇人の乗る練習艦「大成丸」、六ヵ月におよぶ初の長期航海終え品川に帰還。
17（木）●尾崎紅葉を偲ぶ紅葉祭、東京・芝で二〇〇人参加し最後の開催（翌年から硯友祭と改称）。
18（金）●新聞記者有志、官僚内閣打破掲げ同志会結成。
19（土）●女義太夫の豊竹呂昇、一流館の有楽座で公演。
20（日）●警視庁に新設された協同隊（警察官十数人による小部隊）、神田の歳の市に初出動。
21（月）●河野広中ら四五代議士、新党・又新会を結成。酒・石油・砂糖の三税廃止などを宣言。
22（火）●豪議会が首府をキャンベラと決定、と新聞に。
23（水）●仏・ベルギー、コンゴ領境界に関し協定調印。
24（木）●東京市会、電車賃値上げ決定。四銭を五銭に。
25（金）●日米蓄音機㈱、川崎にレコード工場着工。
26（土）●米国のジョンソン、黒人として初のボクシング・ヘビー級世界チャンピオンに。
●華族懲戒委、藤堂高紹の北白川武子女王との婚約勅書返上で、藤堂家の華族礼遇停止決定。
27（日）●東京・渋谷村、村民二万人で町に昇格と新聞に。
28（月）●伊・シチリア島で大地震。約二〇万人死亡。
●陸軍軍務局長に長岡外史就任。初の陸大出身。
29（火）●大阪市、西中島を新水源地に決定。
30（水）●貿易不振で総額は前年比一三％減と大蔵省。
31（木）●伊豆方面の避寒客が不景気で減少、国府津駅乗降客は例年の半分の三〇〇〇人、と新聞に。

流行語
金がなくなると余裕派に

「余裕派」。正岡子規の短編小説集『鶏頭』に、夏目漱石が「余裕のある文学、余裕のない文学」という序文を書いてから広がった言葉で、人生を傍観者的に見る人をさす。ただし学生の間では、金がなくて下宿にじっとしていることを「余裕派を決めこんだ」と言った。

「ポルカ」。東京ではこの年、小学生の間にポルカが大流行。一方、地方議会の議員が、視察と称して東京へ旅行することもさかんになった。彼らは群になってはしゃぎまわったが、その様子をポルカと呼んだ。伊藤博文が「まるで子どもがポルカを踊っているようだ」と評したことから広がったという。

「羽織ゴロ」。株の取引所周辺で、会社に対する悪質なデマをバラまく男たち。会社を脅して金をたかろうとする男たちがふえ、断られるとデマをバラまいた。

「冷蔵庫」。お高くとまった女性や、冷酷な上司など、冷たい人間に対して広く使われた。家庭用冷蔵庫が売り出されたり、鉄道に冷蔵貨車が登場するなど、冷蔵庫が注目されて転用されたもの。女学生の間では意気消沈した状態を「心が冷蔵庫」と言った。

▲獲物の数が200羽を超えた、長崎猟友会の大成果。この年9月には、狩猟法が改正され、免許税が引き上げられている。　毎日新聞社

結婚
写真に恋をした御曹司 明治版シンデレラ物語

岩崎家といえば日本一の大長者、その次男・俊弥氏（二七）は旭硝子会社の社長として敏腕を振るっているが、このたび元大蔵省大書記官・鱸高朗氏の令嬢・八穂子さん（一八）と婚約が整った。

そのなれそめを聞けば、昨年、上野の博覧会を見物した俊弥氏は、第二号館に陳列された女性の写真に恋こがれ、この女性と添えなければ生きている甲斐なしとまでの思いつめようで体もやせ衰えた。

三太夫（執事）の頼みで板垣伯夫人が鱸氏の意向を確かめたものの「ウチと岩崎家では提灯に釣り鐘」と固辞。ならばと前外務大臣・加藤高明氏が説得談判。外交交渉並みの弁舌で承諾させた。

俊弥氏の喜びはひとかたならず、さっそくパリから取り寄せた宝石三〇〇個入り、三万円のブローチを八穂子さんにプレゼントしたほか、岩崎家でも三越に命じて八穂子さんのために二〇万～三〇万円の花嫁道具をしつらえさせている。（「国民新聞」二月一五日）

CM100年

ポスター「森永の西洋菓子」（森永製菓）

▲洋画家・和田三造の作品を広告に使用。風紀を乱すとして物議を醸した。

社会
女の髪で外貨稼ぎ 春と秋の二回収集

日本から外国に輸出される女性の髪の毛がこのところ急速にふえて、明治三七年には一一月までで二八〇〇円にすぎなかったものが、昨年は同じ一一月までで一〇万四二一〇円に達した。輸出先の第一はフランスで五万五二八〇円。次いでアメリカの二万六五三〇円。イギリスはうんと下がって一七〇〇円である。

髪の毛は春と秋の二回収集され、伊豆の女性の髪が最も良質と言われている。（「毎日電報」七月一八日）

▲小島多雅画「改良かるた会」。かるた遊びにまで取締りの手が伸びる当時の息苦しい世相を風刺したもの。「笑」1月20日号収録。
日本漫画資料館提供

三面記事
わがまま勝手なお雇い砲手

明治時代、捕鯨の砲手はもっぱらノルウェー人に頼っていました。彼らは確かに鯨を獲る技術と経験では優れていました。明治四一年、「丸三丸」の記録を見ますと、一月から五月までノルウェー人砲手が捕獲した鯨はシロナガス鯨九頭（一頭平均一六四〇円）、ザトウ鯨二頭（同五〇〇円）、ナガス鯨二頭（同六一〇円）に対し、日本人砲手はイワシ鯨二七頭（一頭平均八八円）だけでした。

したがって彼らの給料も、一ヵ月一五〇円の本給のほか、歩合給が一頭につき三五円。さらに彼らを解雇する場合は六ヵ月分の給料と、ノルウェーまでの旅費を支払う契約でした。それだけに彼らはわがままで、天候が悪いと言っては出漁せず、ノルウェー人同士集まっては、朝からビールを飲み、賭博に明け暮れていました。（泉井守一『捕鯨一代』）

▶この年の一二月、東京・日比谷公園に水飲み場が設置された。物珍しさから取り囲み、水を飲んでみる子どもたち。
毎日新聞社

子ども
角兵衛獅子に稼がせ 親方は自宅で左団扇

東京には角兵衛獅子の親方が十数人いて、幼児二、三人を二～四円で買い受け、テテンテンテンの小太鼓に合わせて角兵衛獅子に仕立て、みずからは家でのん気に暮らしている。

その収入はどれくらいか？　ある親方によれば、一ヵ月のうち稼業のできぬ日もあるので平均三〇円くらい。その中から養育料などを引けば残るところなしと言うが、自分の子には美しい海軍帽をかぶらせ、うまいものを食わせているのに、角兵衛獅子にはろくに食いものも与えず、朝から夕方まで市内を走りまわらせている。（「東京朝日新聞」一一月一四日）

◀初の国産タービン発電機。三菱長崎造船所が開発に成功したもので、自家用に使われた。

はやり歌

人を恋うる歌
作詞　与謝野鉄幹
作曲　不詳

妻をめとらば才たけて
みめ美わしく情けある
友をえらばば書を読みて
六分の侠気四分の熱

恋の命をたずぬれば
名を惜しむかな男ゆえ
友のなさけをたずぬれば
義のあるところ火をも踏む

汲めや美酒うたひめに
乙女の知らぬ意気地あり
簿記の筆とる若者に
まことの男君を見る

▶作詞者・与謝野鉄幹。明治三四年刊行の『鉄幹子』という詩歌集におさめられた作品で、ロングヒットとなった。

不如帰（ほととぎす）
作詞　添田唖蝉坊
作曲　「緑もぞ濃き柏葉の」の調

緑もふかき白楊の
蔭を今宵の宿りにて
恋しき妻とただ二人
或いは泣きつ慰めつ
別れし日より一星霜
その時妻はわが両手
しかと握りて俯きつ
早く帰りて頂戴な

早く帰りて頂戴と
三度叫びしその声は
今尚耳に残れども
一度帰りしその時は
浪子は我が家の妻ならず
二度帰りしその時は
浪子は此の世の者ならず
ああ浪さんよ
なぜ死んだ

◀写真は、「不如帰」の原作者・徳冨蘆花。小説は明治三三年に刊行されベストセラーとなった。歌はこの年、一高寮歌のメロディーで大流行。

歴史
江戸開府以来の老舗 髪結い瓢床取り壊し

東京の道路改正で、赤羽橋近くで三〇〇年来、理髪業をいとなんできた瓢床こと清塚常三郎方が取り壊されることになった。

瓢床の先祖は徳川家康江戸開府のみぎり、駿府から随身してきて髪結い床を開いたもので、江戸の髪結いの元祖である。家屋は火の番小屋として建築されたもので、祖先は火の番と髪結いを兼業してきた。公儀からはそのお墨付きや焼き印の押された鑑札ももらったが、大岡越前守が町奉行の折、町方の歴史を調べるというので貸したまま返ってこなかったという。

なお家は三〇〇年前に建てられ、折々修繕したものの、梁や壁などの基本構造はそのままである。河岸のほとりで隣家がなかったところから、火事や震災でも難を逃れてきた。したがって、当時の庶民の家の建築様式を偲ぶことができるという。そうした由緒ある家が道路改正のため、うむを言わさず取り壊されるのである。（「報知新聞」四月三日）

▶創業二〇周年を迎えた花王石鹼が、馬喰町二丁目に工費五万円で落成した鉄筋煉瓦造り三階建ての本舗。
花王石鹼提供

この年の初もの
天皇堂、「平円盤」を「レコード」と改称

●**マーガリン**　横浜の山口八十八商店が、国産初のマーガリンを発売。ただし、マーガリンと呼ばれるようになるのは大正末のことで、当時は人造バターと称した。

●**ジャーナリズム学部**　米国・ミズーリ大学で開設。ジャーナリズムが本格的研究の対象に。

●**背番号**　米国・ピッツバーグ大のフットボールチームが、観客が選手を記憶しやすいようにとつけたのが最初。

世界の動き

中央シベリア上空で大気圏に突入した巨大物体 破壊力は広島型原爆の一〇〇〇個分 「ツングースカ大爆発」のミステリー！

一九〇八年六月三〇日、突如、謎の飛行物体が、中央シベリア上空で大気圏に突入した。太陽にも匹敵する明るさとなった火の球は、ツングースカ川上空約八キロで大爆発を起こす。爆発による熱風の威力は、広島型原子爆弾の一〇〇〇倍にもおよぶ巨大なもので、二六〇〇平方キロにわたる森林をなぎ倒し、焼失させた。

遊牧民が大爆発を目撃 衝撃波は世界中に伝播

一九〇八年六月三〇日――その日、中央シベリアは静かな朝を迎えようとしていた。午前七時を少しまわった時のこと、シベリア南部からツングースカ地方の住民数千人が、世にも不思議な出来事を固唾を呑んで見守っていた。

南東から北西方向へ、青白く光る火の球が猛スピードで天空を横切り、地平線の彼方に消えていく。それは大気中に長いしっぽを引きずり、目をおおうばかりのまぶしさであった。

爆発が起きたのは七時一五分頃。爆発地点は北緯六〇度五五分、東経一〇一度五七分、ポドカメンナヤ・ツングースカ川の支流、チャンバ川の流域上空八キロのところである。三、四回の爆発で、炎の柱と上空二〇キロまで拡散した黒煙が発生、轟音は半径約八〇〇キロ以上離れた地方まで轟いた。爆発地点から遠く離れたところでは、あたかも大砲の音に聞こえ、日露戦争再開かとの噂も流れた。

幸い爆発は、はてしなく広がるシベリアのタイガ（針葉樹の森林）で起きたため人命が失われることはなかったが、この森林地帯にはエベンキ人（ツングース族）などの遊牧民が、狩猟を生業とし、トナカイを飼育しながら生活していた。

爆発地点から七〇キロ離れた場所にいた遊牧民の一人は、後に「突然空がまっ二つに割れ、森の上空が炎に包まれた。自分も体に火がついたような高熱を感じ、ものすごい破裂音が聞こえた。私は爆風で五〜六メートル吹き飛ばされ、しばらくの間、気を失っていたようだ。地面は揺れていた」と、そのおそろしさを証言している。

爆発の衝撃波は、世界中に伝播した。爆発地点から約九〇〇キロ離れたイルクーツク磁気・気象観測所では、七時一八分から一時間以上も地震波の乱れを観測、八時頃には衝撃波が届き、気象観測装置が大気圧の変動を記録した。

その後、衝撃波はベルリンやロンドンなどヨーロッパ各地で記録される一方、地震波は四〇〇〇キロ離れたペテルブルグにまでおよんでいた。そしてドイツのポツダムでは、翌日の七月一日、地球を一周した衝撃波が、一回目とは逆の方向からキャッチされたのである。

また、この爆発によって発生した塵は、地平線に沈んだ太陽の光を反射して夜空を異常に明るくした。イギリスではこの明るさの中で、真夜中までクリケットの試合が行われ、ベルギーでは、その輝きが、遠方の大火事と間違えられるほどであった。

謎の飛行物体をめぐり 隕石説などが飛びかう

この中央シベリアの大爆発を調査したのは、レオニード・アレクセイヴィッチ・クーリク（三八）である。彼がペテルブルグの科学アカデミーの鉱物学博物館につとめ始めたのは一九一三年、爆発から五年後のことであった。当時、ロシアは混乱状態が続き、シベリア奥地での出来事などに誰も関心を払わなかった。しかも、一九一四年から始まった第一次世界大戦は調査を大幅に遅延させた。

ようやく、クーリクを隊長とした探検隊が組織され、調査活動を開始したのは一九二一年九月初旬のことであった。探検は約八ヵ月間におよび、その間二万キロ以上の道を踏破し、多くの目撃者証言を収集したが、爆発地点には到達することができなかった。

その後の数年間、第一回目の資料をつ

▲クーリクは、根こそぎなぎ倒され焼けこげた樹林帯を目にして茫然とした。爆風と何物をも焼きつくす瞬間的な熱波に襲われた結果であることは、明らかだった。　ユニフォト・プレス

▶クーリクは謎の飛行物体が隕石であることを疑わず、巨大なクレーターをさがしたが、ついに発見できなかった。

▶一九二七年に組織された二度目の探検隊のガイド、イリヤ・ポタポウィッチ。

参考：「Newton」1996年1月号

外から見たNIPPON

士官候補生・蔣介石が「高田連隊」で学んだ日本軍の美点と弱点

――佐伯 修

この年の春、後の中華民国総統、中正・蔣介石（一八八七～一九七五）は、清国陸軍派遣の留学生として来日、清国人を対象とする軍人養成機関「振武学校」に入学した。浙江省出身の蔣は、国防面での祖国近代化を志し、日本で近代的な軍事学を修めようと、二年前の一九〇六年にも来日していた。しかし、清国政府の推薦を受けていなかったため、日本側に受け入れられず、いったん帰国、清国陸軍の士官学校「保定軍官学校」で砲兵科を専攻したのだった。

振武学校在学中に、来日中の孫文と会見するなど、反清朝の革命派との接触を深めた蔣は、一九一〇年末、同校を卒業し、新潟県の陸軍第一三師団野砲兵第一三連隊、通称「高田連隊」に士官候補生として配属される。と言っても、階級は最下級の二等卒であった。そして「厳粛な規律による拘束と、生活の単調さ、無味乾燥さ」などにとまどいをおぼえながらも、蔣はこの兵営生活の中で日本軍の長所と短所を学ぶ。抗日戦の最中の一九四二年の発言の中でさえ、

▲一九一一年、「辛亥革命」勃発後、参加のため帰国。

彼は敵＝日本軍の美点を振り返って言う。

「日本の兵隊は、平時でも一銭を二銭のように活用し、一時間を二時間のように有効に使い、一着の衣服を三年も四年も着用していた。もしや連隊長や中隊長が兵士の服装が少しでも破れているのを見つけると、ただちにつくろわせた。兵舎に雨が漏るとすぐ修理させた。これによってもわかるように、彼らは軍隊を管理することを、まるで家を治めるようにやっている。何と細かく気を配り、何と勤勉節なことだろう……」（「興隆山軍事会議での訓詞」、サンケイ新聞社『蔣介石秘録2革命の夜明け』より）

また、彼は日本の軍隊の強さの秘密は、直接兵士を指導する「班長」と呼ばれる下士官の質の高さにあると見ていたが、一方で、彼らによる兵営内での部下への私的制裁こそ日本軍の「弱点」とも感じていた。

「私は、日本軍隊の下級幹部が、兵士を奴隷や牛馬のように扱うのをみて、このような軍隊で戦争などできるものかと思ったものである。われわれ中国の軍隊は、とくに上官が兵士を殴打あるいは虐待することを厳禁しなければならない」（「西安軍事会議講評」、同）

日本軍体験から十数年後、蔣は孫文の命で「国民革命軍」を育てた。この軍隊は日本よりソ連の影響を強く受けていたと言われ、後に「国府軍」と「紅軍」の共通のルーツとなった。しかし、近代の中国軍隊における蔣を介した日本の影響は、再検討の余地があるのではないだろうか？

ぶさに分析したクーリクは、一九二七年二月、再度、探検に旅だった。

爆発地点は、広大なタイガの入り口にあたる村落、ヴァナヴァラの交易所から七〇キロの位置にあり、無数の河川が入り組んだ湿原を越え、森の中の茂みを切り開いて進まなければならなかった。

クーリクは、フラドニ尾根と呼ばれる丘陵の頂きに登り、予想もしなかった異様な光景を目のあたりにして、日記にこう記している。

「私の立っているところからは、樹林のかけらさえ見えない。すべて倒され、焼けこげている。（中略）太さ六〇センチから九〇センチもある巨木が、小枝のようにへし折られて、梢を南に向けて何メートルもある巨幹を投げだしているのを見ると、不気味な感じである」

調査はその後も断続的に行われた。クーリク自身は一九四二年に死去するが、一九六三年からは、毎年のように調査が行われた。その結果、破壊された地域の樹木は蝶が羽を広げたような形になぎ倒されており、二六〇〇平方キロの森林が焼失したことが明らかになった。その面積は東京都を上回る広さである。

その間、謎の飛行物体をめぐり、諸説が飛びかった。クーリク自身が主張した巨大な隕石説をはじめ、彗星衝突説、核爆弾破裂説、はたまた宇宙人が乗りこんだUFO地球侵入説――。

決定的証拠を欠いたまま、その後引き続き調査が行われた結果、爆発したのは直径一〇〇メートルほどの岩石質の塊であることが判明した。重さにして数十万トンの巨大隕石が、秒速三〇キロの速さで大気圏に突入して爆発、そのエネルギーは、TNT火薬に換算して一二～二〇メガトン、広島型原子爆弾の六〇〇～一〇〇〇個分にも相当したのである。

はたして今後、再び巨大隕石と地球が衝突することはあるのだろうか。

「六五〇〇万年前、恐竜を絶滅させた直径一〇キロ級のものは、ほとんど軌道が確認され、衝突の危険性はありませんが、太陽系内には数百メートル級以下のもので未確認のものが、五〇万個から十数億個あるとも言われています。この類のものは明日にでも衝突する可能性があると言ってよいかもしれません」

こう語るのは、国立天文台助教授の磯部琇三氏である。

▲タイガ地帯に踏み入り、フシュモ川を渡る探検隊員。群がる蚊を防ぐため、頭にネットをかぶっている。

レオニード・A・クーリク（1883～1942）鉱物学博物館で隕石を研究。一九二一年から四次にわたる、ツングースカ探検隊の隊長をつとめる。独ソ戦で捕虜となり、ナチの収容所で死去。

往きて還らぬ

◀6月23日　国木田独歩（36）
小説家。詩人として出発、後に「武蔵野」「牛肉と馬鈴薯」「春の鳥」など短編小説を発表、自然主義文学の先駆に。

▲4月24日　津田仙（70）
教育家。明治11年、耕教学舎（青山学院大学の前身）創立に参画した。津田塾大創立者・津田梅子は娘。

▲1月13日　橋本雅邦（72）
日本画家。元東京美術学校教授。明治23年内国勧業博で「白雲紅樹」が入賞。31年岡倉天心らと日本美術院創立。

▲10月26日　榎本武揚（72）
旧幕臣、政治家。慶応4年（1868）、徳川艦隊を率い箱館を占領。明治2年、征討軍に降伏後、明治政府の要職を歴任。

▲7月1日　児島惟謙（71）
裁判官。明治24年大審院長に就任。「大津事件」裁判で政府の裁判干渉を退け、司法権の独立を守る。衆議院議員。

▲5月24日　S・クリーブランド（71）
米の政治家。ニューヨーク州知事を経て、第22代・24代大統領をつとめた。関税引き下げを主張、自由貿易を促進。

▲3月2日　那珂通世（57）
日本近代史学の祖で、「東洋史」の命名者。千葉師範・女子師範の校長をつとめる。『成吉思汗実録』などを校訂出版。

▲9月20日　パブロ・サラサーテ（64）
スペインの作曲家、バイオリニスト。代表作は「ツィゴイネルワイゼン」。財産の大半が慈善事業に投じられた。

▲6月15日　川上眉山（39）
小説家。東京帝大文科大中退。明治23年発表の「墨染桜」で一躍有名に。硯友社の俊秀として活躍したが、自殺。

▲11月30日　初代西ノ海嘉治郎（53）
力士、明治23年横綱。きめ出しを得意とし、薩摩出身から“藩閥横綱”と言われた。引退後、年寄井筒を襲名。

▲9月21日　E・F・フェノロサ（55）
米の東洋美術史学者、明治11年来日。新たな日本画の創造運動を展開し、仏教に傾倒。東京美術学校設立に尽力。

▲6月21日　リムスキー・コルサコフ（64）
露の作曲家。国民楽派と呼ばれ、管弦楽曲の名作を残す。代表作に「シェエラザード」「スペイン奇想曲」ほか。

▲3月25日　岩崎弥之助（57）
実業家。明治18年、兄・弥太郎（三菱財閥の創設者）の死後、三菱商会社長に就任。海から陸へ事業分野を転換する。

週刊 YEAR BOOK
日録20世紀
第89号 11月24日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1909[明治42年]

●**特集**
ハルビン駅頭で三発の銃弾！　安重根、枢密院議長・伊藤博文を狙撃／世界総生産高の三四％を占める大躍進　生糸"世界一"を支えた「女工哀史」／みずから出処進退を決定したトップ　渋沢栄一「引退宣言」の衝撃！／「初の到達者」の名誉をかけて大論争　ピアリー、執念の北極点征服！

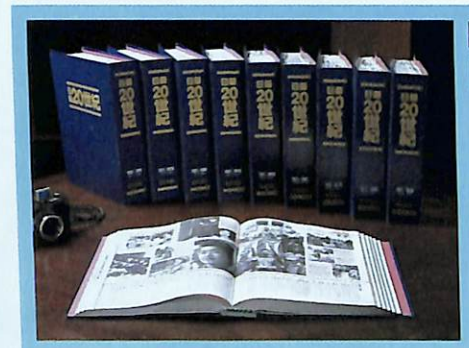
●**ニュース・ファイル**
フォト＋日録で再現する365日…永井荷風の『ふらんす物語』発禁（3月25日）／ロシア・バレエ団、パリ初公演（5月19日）／東京・両国の国技館、開館（6月2日）／仕立屋銀次、逮捕（6月23日）／大阪市北区で大火（7月31日）／山県有朋、三度目の枢密院議長に（11月17日）

●**人物クローズアップ**
賀川豊彦、貧民救済の新生活開始！

●**決定的瞬間**
"アパッチの勇者"ジェロニモの死

●**美の出会い**
バーナード・リーチの来日と近代陶芸

●**女たちの肖像**…末弘ヒロ子、世界美人投票で第六位！／**勝者・敗者**…日本初のマラソンレース開催！／**証言・あの日この日**…高村光太郎、高浜虚子／**「現場」を歩く**…元赤坂、東宮御所が迎賓館に変貌するまで／**20世紀博物館**…京菓子資料館（京都）／**外から見たNIPPON**…ベルツがドイツで聞いた伊藤博文の暗殺

●**ベストセラー**…文芸雑誌「スバル」／**スターと名場面**…小山内薫・左団次の「新劇」／**モノ語り'09**…清涼飲料水「シトロン」

日録20世紀専用バインダー
高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円（税別）。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中（既刊88冊！ 1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九一〇年代：第71号1911[明治44年]　第72号1912[大正元年]　第73号1913[大正2年]　第74号1914[大正3年]　第75号1915[大正4年]　第76号1916[大正5年]　第77号1917[大正6年]　第78号1918[大正7年]　第79号1919[大正8年]　第80号1920[大正9年]

一九二〇年代：第62号1921[大正10年]　第63号1922[大正11年]　第28号1923[大正12年]　第64号1924[大正13年]　第65号1925[大正14年]　第66号1926[昭和元年]　第67号1927[昭和2年]　第68号1928[昭和3年]　第69号1929[昭和4年]　第70号1930[昭和5年]

一九三〇年代：第43号1931[昭和6年]　第44号1932[昭和7年]　第45号1933[昭和8年]　第46号1934[昭和9年]　第47号1935[昭和10年]　第48号1936[昭和11年]　第49号1937[昭和12年]　第50号1938[昭和13年]　第51号1939[昭和14年]　第52号1940[昭和15年]

一九四〇年代：第19号1941[昭和16年]　第20号1942[昭和17年]　第21号1943[昭和18年]　第22号1944[昭和19年]　第3号1945[昭和20年]　第23号1946[昭和21年]　第24号1947[昭和22年]　第25号1948[昭和23年]　第26号1949[昭和24年]　第27号1950[昭和25年]

一九〇〇年代：第83号1903[明治36年]　第84号1904[明治37年]　第85号1905[明治38年]　第86号1906[明治39年]　最新刊 第87号1907[明治40年]

■今後の刊行予定
▶第90号1910[明治43年]12月1日発売
「韓国併合条約」調印！●「大逆事件」のでっちあげ！●"千里眼"のカラクリ●「ハレー彗星大接近」パニック
▶第91号1991[平成3年]12月8日発売
雲仙普賢岳、恐怖の大噴火！●「湾岸戦争」勃発●続発！ 金融犯罪と"闇の紳士"●「ソ連邦」消滅！
▶第92号1992[平成4年]12月15日発売
尾崎豊、26歳の突然死！●三内丸山遺跡発見●野坂参三、除名●ボスニア内戦「民族浄化」の狂気
▶第93号1993[平成5年]12月22日発売
皇太子・雅子さん、ご成婚！●「ダイオキシン」、母乳から検出●Jリーグ開幕！●"麻薬の帝王"エスコバル射殺
▶第94号1994[平成6年]平成11年1月6日発売
向井千秋さん、宇宙へ！●河野義行氏が語る松本サリン事件●平成「米騒動」●金日成急逝！
▶第95号1995[平成7年]1月12日発売
阪神・淡路大震災！●「地下鉄サリン事件」●「米兵暴行事件」と沖縄の怒り●「ウィンドウズ95」日本発売！

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先　講談社読者サービス係　電話03-5395-3676

ミニ事典
1908年のキーワード

辰丸事件
日本の貨物船「第二辰丸」が二月五日、マカオ沖で清国官憲に密貿易の疑いで拿捕・抑留された事件。清国系鉄砲商の発注で銃器弾薬を神戸からマカオへ運ぶ途中の事件で、銃器は輸出入許可書を得ていた。日本政府は即時釈放と賠償を、軍艦を派遣しながら強硬に要求。三月、清国は要求を呑んだが、これを日本の横暴として憤慨した清国民衆の日貨排斥運動が、広東・香港で激発。排日運動の先駆的事件となった。

世界一周会
朝日新聞社が英国の大手旅行社と提携、最短の時日・最少の費用（二三〇〇円）で欧米各都市を巡覧するのを目標にして結成された団体。後の野村証券の若き当主・野村徳七ら五七人（うち女性三人）が三月一八日、横浜を出発。サンフランシスコ、ニューヨーク、ロンドン、パリ、ベルリン、ペテルブルグ、ウラジオストクなどの都市をめぐり、六月、敦賀に帰着、初の豪華な試みを終えた。

義務教育六カ年制
父母や後見人が、子弟を就学させなければならない義務を、六ヵ年とする制度。前年の改正小学校令により四月一日、六年制の尋常小学校開始とともに実施された。それまでの義務教育は明治三三年からの尋常小学校四ヵ年。実施には、義務教育無償制の採用によって、三五年には就学率が九〇パーセントに達していた背景があった。六ヵ年制は大正九年、就学率九九パーセントを実現した。

臨時仮名遣調査委員会
五月二五日、仮名遣い改定に対して調査・検討するため文部省が臨時に設置した。委員長・菊池大麓、委員に森鷗外、大槻文彦、徳富蘇峰ら二四人が選ばれた。同会は文部省の国語調査会が進める、「ゐ→い」に統一、棒引き「ー」字を用いて、和語を発音式にするなど、児童の負担軽減をはかる改定案に反対。翌々年から国定教科書は、明治三三年改正以前の歴史的仮名遣いに復帰した。

猥褻物の大量摘発
警視庁が八月一〇日から三日間、同庁開設以来の大がかりな一斉取締りを実施、大量の猥褻物を押収した。版木約七〇〇〇枚、写真原板約二〇〇〇枚、春画・猥本など一六万部、裸体写真・絵はがき一二万枚におよび、関係者百余人が検挙された。その出所の大半は、日露戦争時に政府・軍部が、兵士の慰安のため、組織的に製作・配布した写真などで、撤収時の回収もれや、戦後もひそかに作り続けられたものだった。

別子銅山煙害事件
住友直営の愛媛・別子銅山が起こした煤煙による公害事件。生産量増加とともに深刻化したため、明治三八年、陸地から離れた無人島・四阪島に精錬所を新設。しかし越智（現・今治市）など東予四郡では麦の枯死などの被害が拡大。この年八月、農民たちは煙害除外同盟を結成、本部に押しかけるなどの抗議行動を繰り返した。翌年、会社側は賠償金を提示、紛争はおさまったが、煙害は昭和一四年の中和工場完成まで続いた。

▲煙害防止用に建設された四阪島精錬所。高い煙突がかえって被害を広めた。

東洋拓殖株式会社
日本が、朝鮮での拓殖事業を目的に設立した国策会社。八月二七日に公布の東洋拓殖株式会社法により、一二月に本店を漢城（現・ソウル）に設置。農業開発を名目に韓国の土地買収を進め、最大の地主経営者となる一方、大正一五年までに、日本人農業移民、九〇九六戸を入植させた。昭和六年には営業地域を満州（中国東北部）から太平洋南西部にまで拡大、日本の海外進出の先兵となった。

▲東洋拓殖株式会社の本社。資金は日本、土地は韓国が提供する共同経営の形で発足した。

ボスニア・ヘルツェゴビナ併合
第一次世界大戦の導火線となった国際問題。一八七八年、ベルリン条約でボスニア・ヘルツェゴビナはオーストリア帝国の管理下におかれた。多数居住するセルビア人は、隣国・セルビアの同地方領有のもくろみに呼応して反抗したが、一〇月六日、列強が認めた帝国の併合策で鎮圧された。この時の恨みが、一九一四年六月二八日のサラエボにおけるオーストリア皇太子暗殺事件を生んだ。

戊申詔書
国民の思想・風紀をただすために一〇月一三日に発布された詔書。この年が戊申だったため「戊申」を冠した。日露戦争後、戦勝に酔う国民の間で快楽主義が蔓延、また社会主義の台頭など「思想悪化」が目立ち始めた。詔書はこうした風潮を改め、皇室を中心に国民が一体となって国運隆盛に励み、列強に伍していくことを求めた。教育勅語と並び、明治憲法下の国民道徳の指針となった。

高平・ルート協定
駐米大使・高平小五郎と米国務長官・ルートの間で、一一月三〇日に交わされた公文。日米両国の太平洋における現状維持、清国の領土保全と機会均等の確認などが内容。日露戦争後、移民問題などで深まった日米間の対立を緩和するため、第二次桂太郎内閣によって企図された。米国に日本進出の抑止を期待していた清国の落胆は大きかった。

「太陽」
▲協定調印に向かう高平駐米大使。交渉は10月から始められた。

藤堂伯爵スキャンダル
徳川家康配下の有力大名、藤堂高虎の子孫・高紹の無軌道ぶりが世間の顰蹙をかった事件。高紹は前年ケンブリッジ大在学中に、宮内大臣を経ずに英国人女性と結婚。ところが、帰国後に北白川宮武子と縁談が生じると、戸籍を本所から巣鴨へ三日間ほど移して、英人女性との結婚・離婚の跡を消滅させ、何食わぬ顔で武子との結婚話を進め、勅許を得たが、発覚。一二月二六日、華族懲戒委員会は、高紹の正五位伯爵の礼遇を停止。宮家も同日、結納を返上した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1908
CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター／山口至剛
表紙デザイン／山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕二
本文レイアウト／デザインオフィス八起き
編集協力／(有)エーピーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ (有)マックス (有)マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　菊地美優貴　小松邦宏　張替政展
藤森雅弘　森邦久　結城順一　吉田忠正

●写真協力
石井美雄　太田公平　大畑俊男　片山章雄　川上富司　川上初　楠田守　塩田武史　但馬一憲　田代真一　藤崎康夫　渡辺充俊
「イリュストラシオン」　オリオン・プレス　CORBIS・BETTMANN　三省堂　新潟日報事業社　デジタルハウス　西日本新聞社　HULTON GETTY　PPS　平凡社　Popper foto　毎日新聞社　ユニフォト・プレス　ROGER・VIOLLET
味の素　花王石鹸　ジュネス企画
五十嵐健治洗濯資料館　大本本部　北原照久コレクション　京都市水道局　呉市企画部海事博物館推進室　三康図書館　自転車文化センター　中国文化省　東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫　日仏会館図書室　日本カメラ博物館　日本近代文学館　日本はきもの博物館　日本漫画資料館　博物館網走監獄　ボタンの博物館　龍谷大学図書館

第2巻第45号 通巻88号

定価560円

雑誌 23711-12/1 T1123711120566
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社